

三菱ケミカルグループ株式会社
(証券コード:4188)

個人投資家様向け会社説明会

2026年9月29日

三菱ケミカルグループ株式会社
執行役員 チーフファイナンシャルオフィサー (最高財務責任者)
木田 稔



目次

1	イントロダクション、会社概要	P2
2	事業変革 Purposeの実現に向けて	P15
3	成長戦略 「守り」から「攻め」へ	P25
4	株主還元、資本政策	P32
5	参考情報	P38
	(1) 財務情報	P39
	(2) 中期経営計画 2029	P41
	(3) 事業概要	P47
	(4) 外部からの評価、ブランディング	P60

三菱ケミカルグループは、
社会課題の解決と、スペシャリティマテリアルズ領域での
成長を目指しています。

次のような期待をお持ちの個人投資家の皆さまに、
ぜひご注目いただきたい企業です。



社会課題の解決を、事業の成長につなげる企業に投資したい



気候変動や環境問題などの社会課題に、素材・ソリューションを通じて貢献



大きな事業変革を着実に進める企業に期待したい



石油化学業界の再編や事業ポートフォリオ改革を、競争力強化の機会に転換



高付加価値領域への転換による中長期成長に期待したい



高機能素材・ソリューション事業を拡大し、収益性と企業価値の向上を追求



安定配当を基盤に、利益成長の成果を受け取りたい



配当性向35%を目安に、利益成長に応じた配当増加を目指す

新CM「CHEMISTRY for The Planet」



再生時間：30秒

動画はこちら



「化学の力」とは

私たちは、「レシピ×材料×装置」を組み合わせ、顧客ニーズに最適なソリューションを提供しています。
そこで培う技術・ノウハウが、模倣困難な競争優位の源泉です。
顧客との「擦り合わせ」から未来に向けた新たな価値を生み出す。それが私たちのビジネスです。

「どういう社会を実現したいか」
多様化・複雑化する
顧客のニーズを捉える



性能・品質
コスト・生産性
利便性・快適性
安全・安心
環境・社会課題

レシピ×材料×装置
を擦り合わせ、
顧客とともに「答え」をつくる



材料設計・配合
加工・プロセス条件
装置・設備条件
評価・解析
経験・現場知

技術・ノウハウの
積み重ね（知的財産）により
新たな価値を生む



顧客・用途理解
設計・配合レシピ
プロセス・製造条件
評価・品質データ
熟練ノウハウ

三菱ケミカルグループの概要 | 会社概要・事業運営体制

世界約5.7万人・500社で、4つの事業領域を展開

商号	三菱ケミカルグループ株式会社
代表者	代表執行役社長 筑本 学
資本金	500億円
従業員数	56,678名 ¹ （連結）
関係会社数	489社 ¹
決算期	3月31日

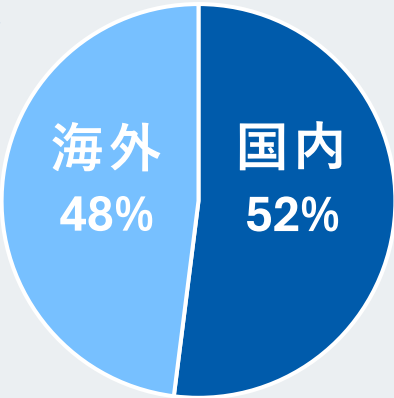


1. 2026年3月31日現在

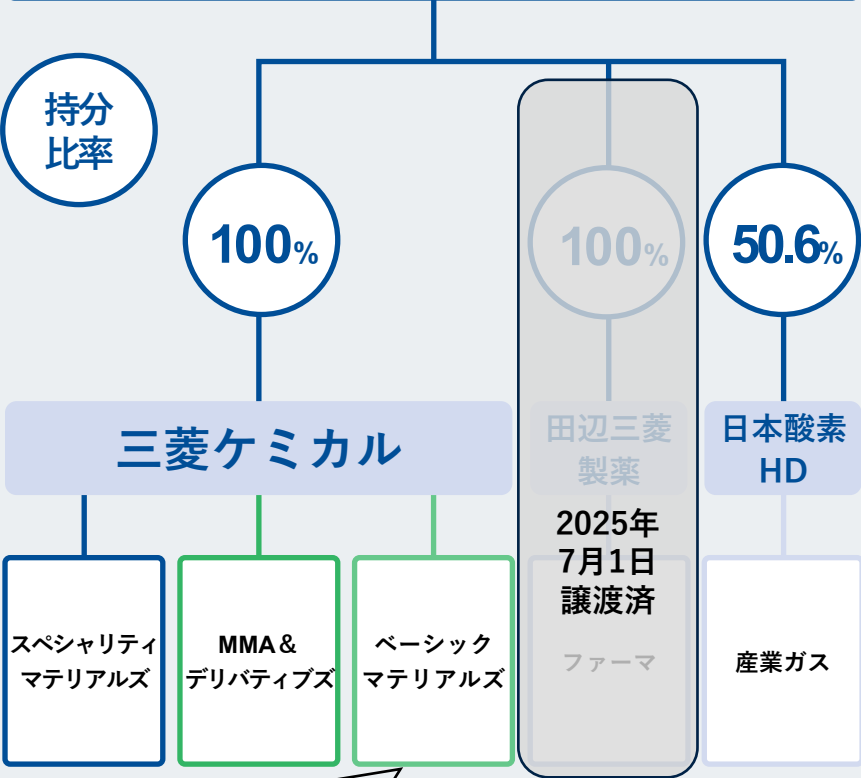
グローバルネットワーク（関係会社数）



FY2025 地域別売上収益比率



三菱ケミカルグループ



基礎化学品
炭素

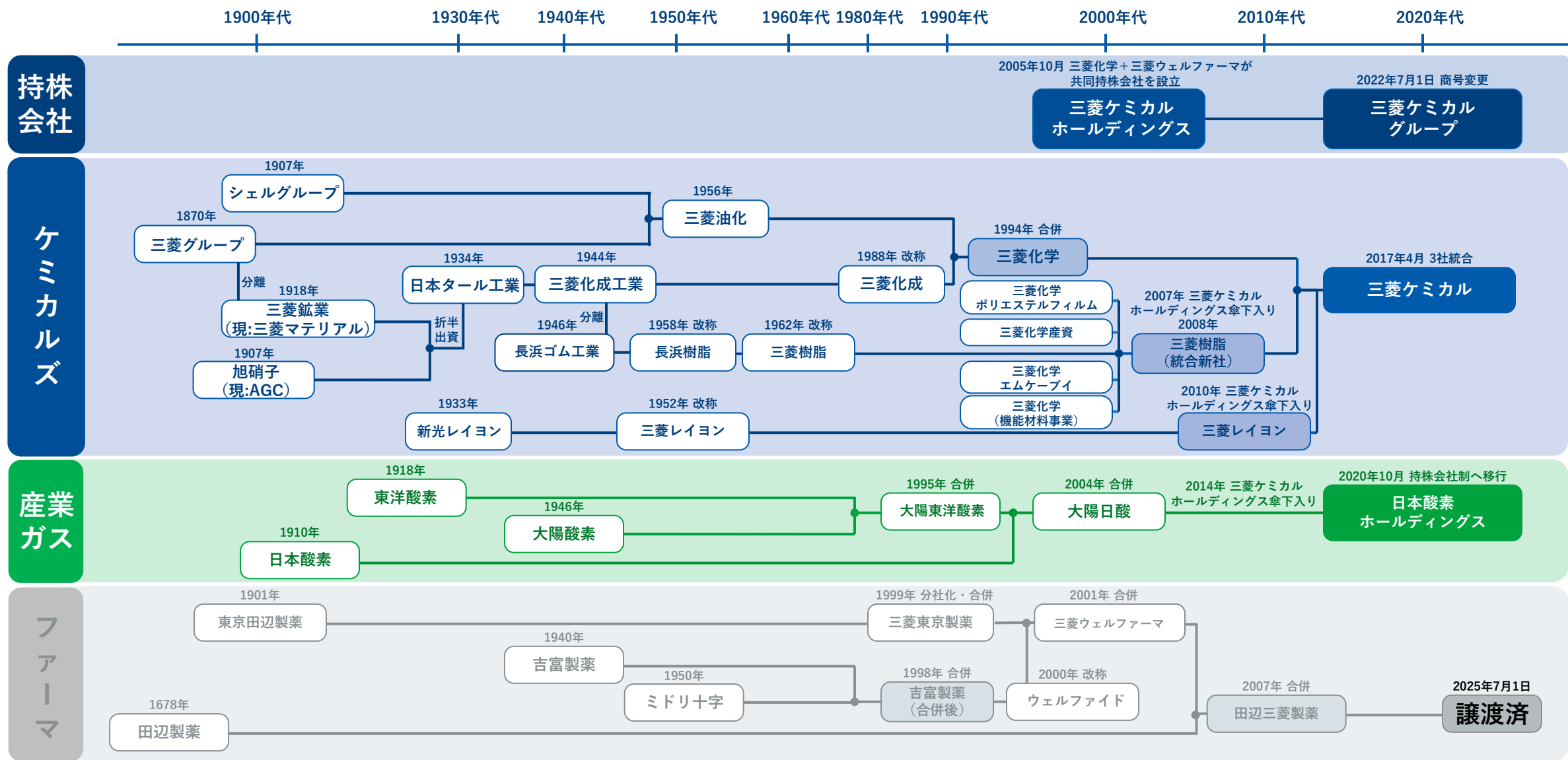
：2027年度中の分社化実行に向けて検討開始※
：2027年度下期までに生産終了予定

※対象：ベーシックマテリアルズの基礎化学品事業を中心に検討。
ただし、今後の検討を通じて対象が変わる可能性があります。

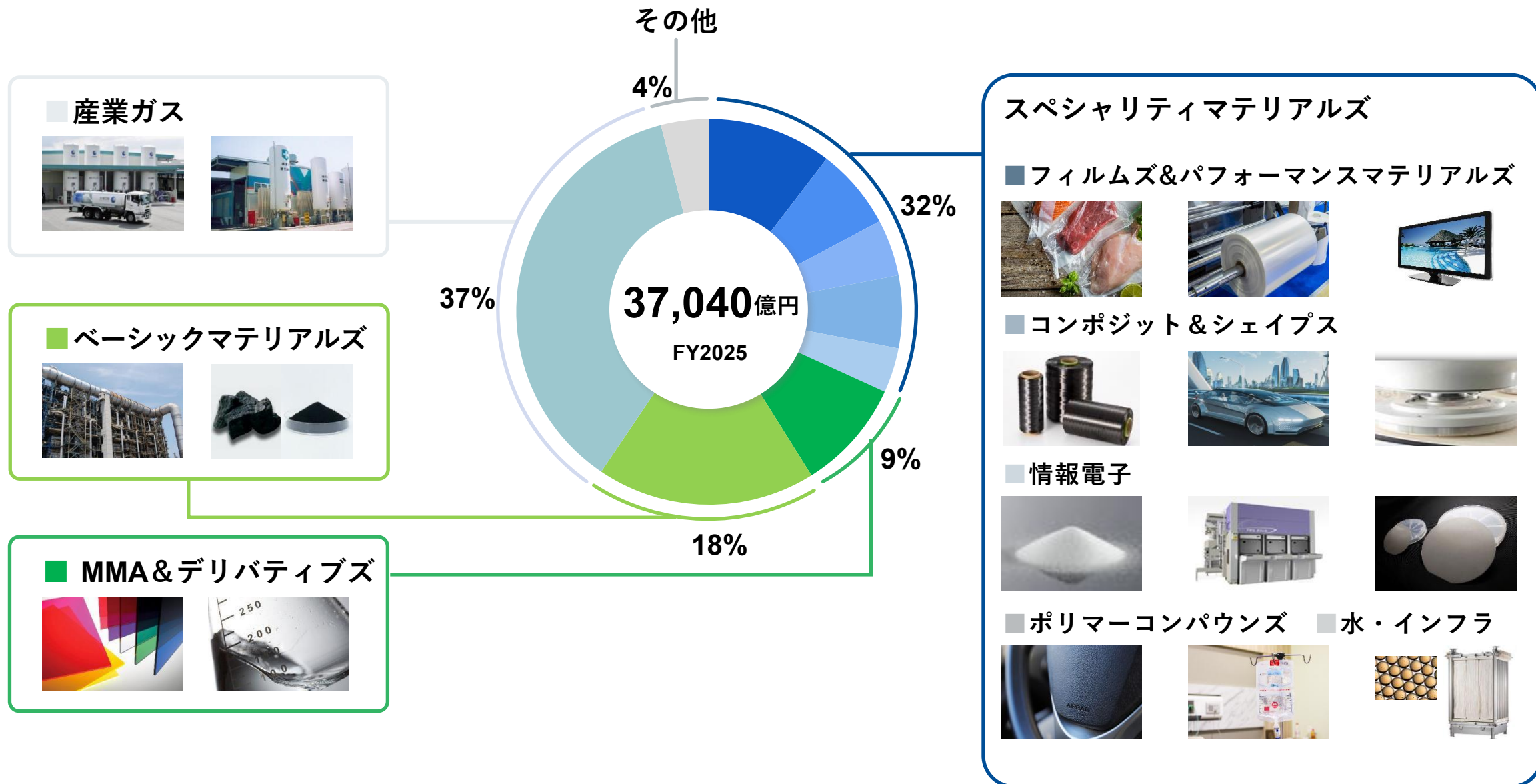
三菱ケミカルグループの概要 | 事業の歴史



事業統合と持株会社体制の進化を重ね、現在の三菱ケミカルグループへ



三菱ケミカルグループの概要 | 事業別売上構成比



三菱ケミカルグループの身近な製品

三菱ケミカルグループは、幅広い素材・ソリューションを通じて、毎日の食卓から日常生活まで、目に見えないところで社会を支えています

食卓を支える

おいしさ・食感を整える



シュガーエステル

水と油を均一に混ぜ、おいしさやなめらかな食感を保つ

おいしさを長持ちさせる



ソアノール™

包装材への酸素の侵入を抑え、鮮度保持と食品ロス削減に貢献

食品をしっかり守り、開けやすく

出典元：プリマハム(株) Webサイト*1



ダイアミロン™

複数の樹脂層を重ね合わせ、食品を守る機能と開けやすさを両立

日常を支える

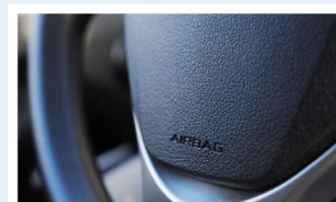
くっきり、見やすく



クリアフィット™

ディスプレイの反射や映り込みを抑え、画面をくっきり見やすくする

もしもの時に、安全を支える



Thermorun™

暑さや寒さの中でも、エアバッグの安全な展開を支える

より鮮やかに、省エネに



OPLフィルム™

薄膜技術でディスプレイの明るさと省エネに貢献

私たちは、革新的なソリューションで、
人、社会、そして地球の心地よさが続いていく
KAITEKIの実現をリードしていきます。

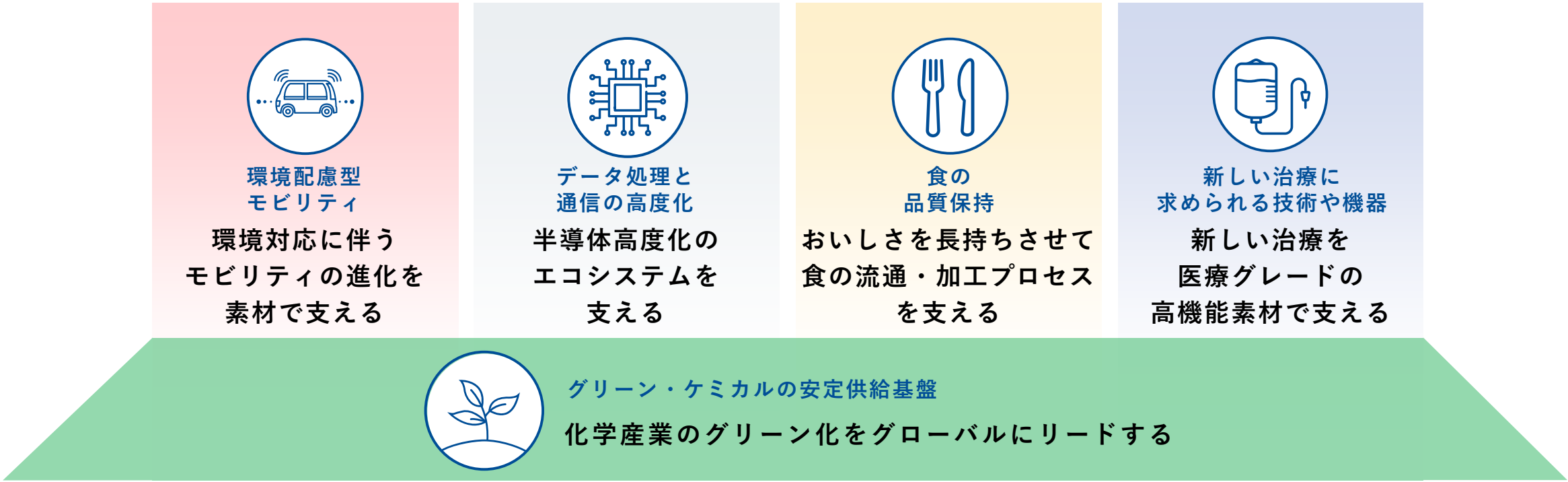
Purposeは、三菱ケミカルグループ※が何をめざし、なぜ存在するのかを示したものです。
三菱ケミカルグループを導く「北極星」として掲げ続けてきたKAITEKIの実現に向けた力強く
前向きな意志と、ステークホルダーに対する私たちの約束を表しています。

5つの注力事業領域におけるVision

化学は、暮らしと産業に不可欠な「社会インフラ」



社会が求める最適なソリューションを提供し続けるグリーン・スペシャリティ企業になる



化学業界の転換点

一方、化学業界においては、供給構造・調達環境・社会的要請が同時に変化しており、従来の事業構造の延長線では、競争力と安定供給を両立することが難しくなっています

SUPPLY

供給構造の変化

グローバルな生産能力の拡大
国内需要の縮小

PROCUREMENT

調達リスクの高まり

地政学リスクや国内生産体制の変化
ナフサ・基礎原料の調達不確実性

RESPONSIBILITY

脱炭素への要請

社会インフラとしての供給責任
グリーン化への転換

供給過剰を背景に、価格競争・値下げ圧力が激化
従来型モデルの限界が顕在化

変革から成長へ |
社会インフラとしての責任を果たしながら、事業構造を変革し、成長領域へ

石油化学事業の構造改革

日本のサプライチェーン強靱化・
経済安全保障に貢献

安定供給を維持しながら、
持続可能な事業基盤へ



成長領域へ

スペシャリティマテリアルズへ
経営資源を集中

収益性と資本効率の改善による
企業価値向上

三菱ケミカルグループはこの転換点を、
事業変革と成長への機会に変えていきます。

目次

1	イントロダクション、会社概要	P2
2	事業変革 Purposeの実現に向けて	P15
3	成長戦略 「守り」から「攻め」へ	P25
4	株主還元、資本政策	P32
5	参考情報	P38
	(1) 財務情報	P39
	(2) 中期経営計画 2029	P41
	(3) 事業概要	P47
	(4) 外部からの評価、ブランディング	P60

連結損益計算書 | 利益の推移 (FY24実績～FY26予想)



- FY24・FY25は構造改革や資産最適化（事業整理・売却）に伴う多額の非経常損失が利益水準に影響
- FY26は2年間にわたる構造改革の成果と3つの施策の継続実行により、スペシャリティマテリアلزの収益力強化と事業成長が着実に進展
- 産業ガス事業は堅調に推移

為替レート (¥/\$)	152.6	151.1	157.9	150.0
ナフサ単価 (¥/kl)	75,600	65,200	102,450	63,000
	(億円)			

※FY26通期予想：2026年5月13日公表
FY26上期予想：2026年7月31日公表

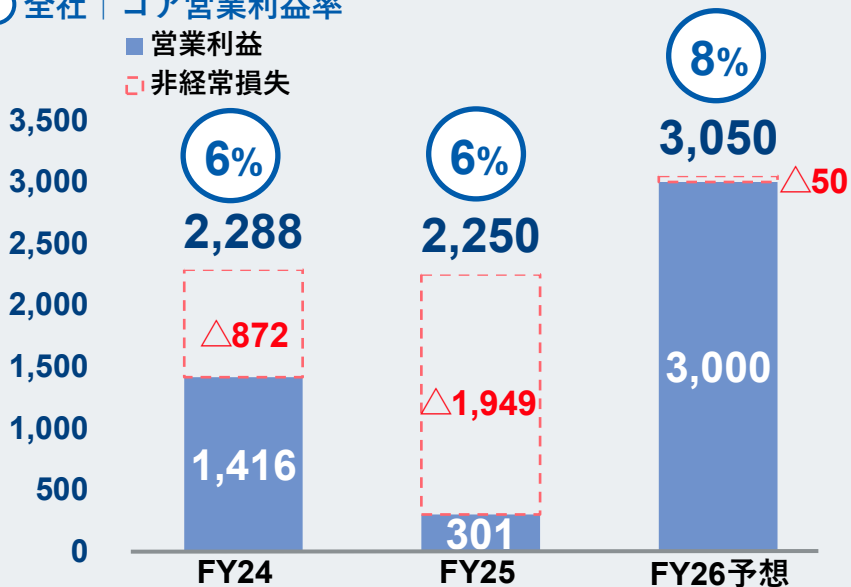
	FY24	FY25	FY26	
	通期	通期	上期予想	通期予想
売上収益	39,476	37,040	20,430	38,000
コア営業利益	2,288	2,250	1,940	3,050
非経常項目	△ 872	△ 1,949	△ 50	△ 50
営業利益	1,416	301	1,890	3,000
税引前利益	992	7	1,750	2,700
法人所得税	△ 411	△ 171	△ 450	△ 700
継続事業からの当期利益	581	△ 164	1,300	2,000
非継続事業からの当期利益	475	948	-	-
当期利益	1,056	784	1,300	2,000
親会社の所有者に帰属する当期利益	450	118	860	1,270
非支配持分に帰属する当期利益	606	666	440	730

全社 | コア営業利益 (億円)

○ 全社 | コア営業利益率

■ 営業利益

□ 非経常損失

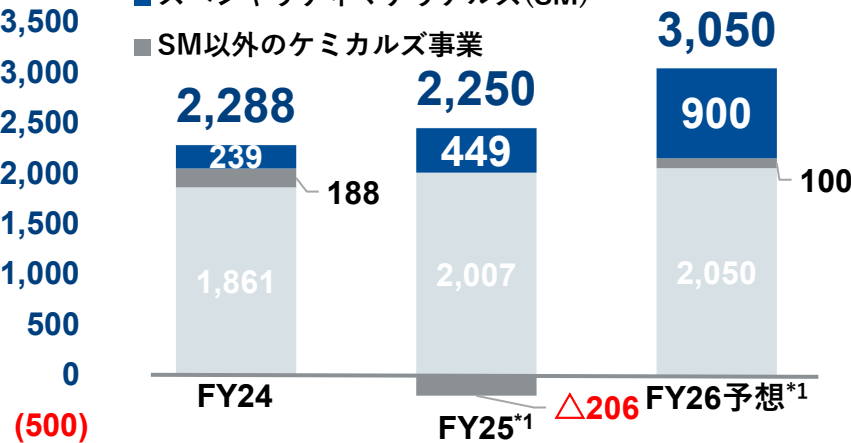


事業別

全社

■ スペシャリティマテリアلز(SM)

■ SM以外のケミカルズ事業



*1 2026年4月1日付の組織改正に伴い、2027年3月期以降の報告セグメント区分に基づき組み替えた数字で表示

構造改革 | 構造改革事業については大きな方向性を意思決定済み

石油化学事業の構造改革＝日本のサプライチェーン強靱化・経済安全保障に貢献

西日本エチレン製造設備の生産体制最適化×グリーン化の推進

- 旭化成、三井化学、三菱ケミカルの3社が連携し、西日本におけるエチレン製造設備のグリーン化と生産体制最適化を推進。
- 競争力のある基礎化学品のグリーン化を加速させ、各社の事業領域におけるグリーン市場の拡大を目指すとともに、持続可能な事業モデルの構築を目指す。

西日本で進む具体的なアクション



エチレン生産能力 (定期修繕実施年)
統合前: 95.1万t/年
統合後: 45.5万t/年

構造転換 (Scope1、2)
▲50.6万t-CO₂/年
(対23年度 (大阪)・24年度 (水島))

石油化学事業の分社化の検討を開始

- アライアンスを通じ、石油化学事業の競争力を一層強化。
- 国内産業のサプライチェーンの強靱化、日本の経済安全保障に貢献し、責任を持ってこれを遂行し続けていく体制の構築を目指す。

検討の背景

- 日本国内外での需要減
- 海外、特に東アジアでの競争力低下
- グリーン化の要請

検討の狙い

- 他社とのアライアンスに積極的に参画
 - ・ 石化産業全体の構造改革
 - ・ 競争力強化
 - ・ グリーン化の積極的推進
- 経済安全保障とインフラとしての役割

2027年度中の分社化実行に向けて詳細を検討

対象：ベーシックマテリアルズの基礎化学品事業を中心に検討※

※ただし、今後の検討を通じて対象が変わる可能性があります

構造改革 | 構造改革事業については大きな方向性を意思決定済み

石油化学事業に加え、その他の構造改革事業についても方向性を明確化し、具体的な施策を着実に実行

炭素事業

コークス・炭素材
事業撤退

- 根本的に需要低迷・供給過剰の市場環境
- コークス・炭素材：減産などの自助努力により大きく収益性は改善も、今後の事業を取り巻く環境は厳しいと判断し、事業継続を断念

MMA事業

MMA/PMMA
事業の再構築

- 中国の増産による市況悪化を受け、グローバルで事業再構築に向けた施策を実行中
 - ・ 欧州市場における販売戦略・拠点見直し
 - ・ 台湾JV解消決定、ポストイラン紛争の他アジア各拠点の在り方を検討
 - ・ 老朽化した米国拠点の将来像の検討加速
 - ・ インド事業拡大に向けた検討推進

組織構造変革

NSP/ポストオフ

- 要員最適化により、業務の見直し・効率化による生産性向上
- 中堅・若手を含む優秀人材の育成強化と活躍促進

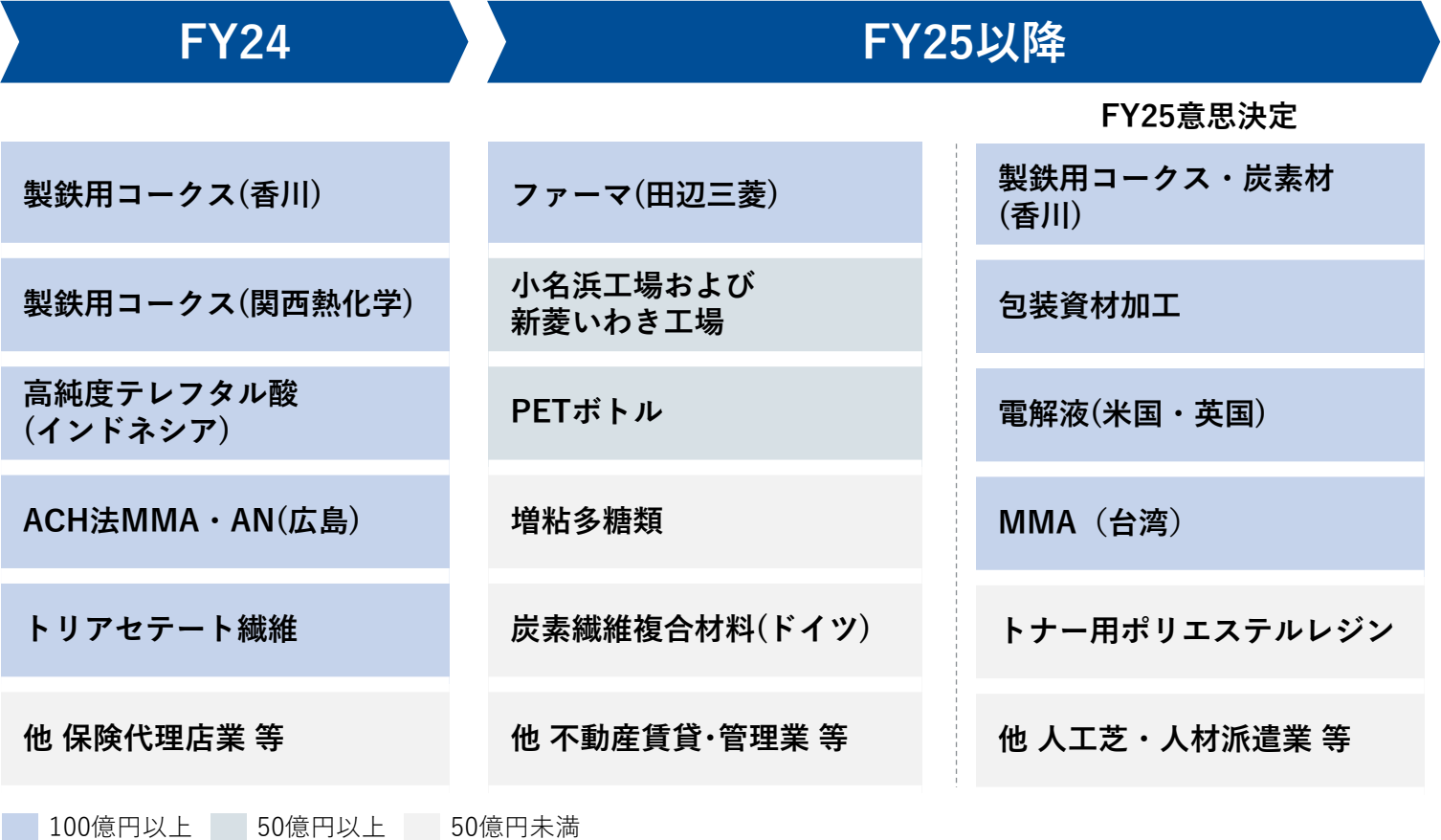
資産最適化（事業整理・売却）

中期経営計画の4,000億円規模の事業整理・売却に対して、当初計画を上回る規模をこの2年間で実行し、来年度以降の成長へ向けた土台を整備

売上収益相当



案件



スペシャリティマテリアルズの4つの注力事業領域が利益成長を牽引

全社 | コア営業利益

3,050億円 (FY26予想)

ケミカルズ
33%

産業ガス
67%

1,000億円

2,050億円

ケミカルズ | コア営業利益

1,000億円 (FY26予想)

スペシャリティマテリアルズ
90%

900億円

スペシャリティマテリアルズ | コア営業利益

900億円 (FY26予想)

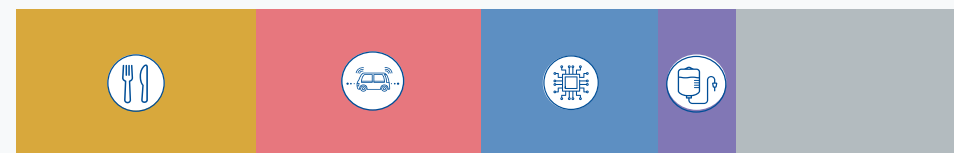
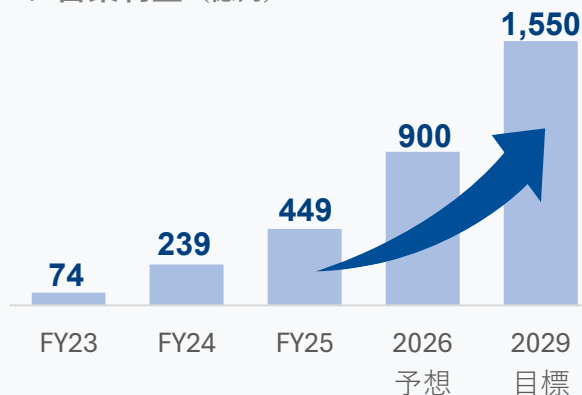
4つの注力事業領域が占める割合

約75%* (FY26予想)

4領域を重点的に伸ばし、
利益成長を加速



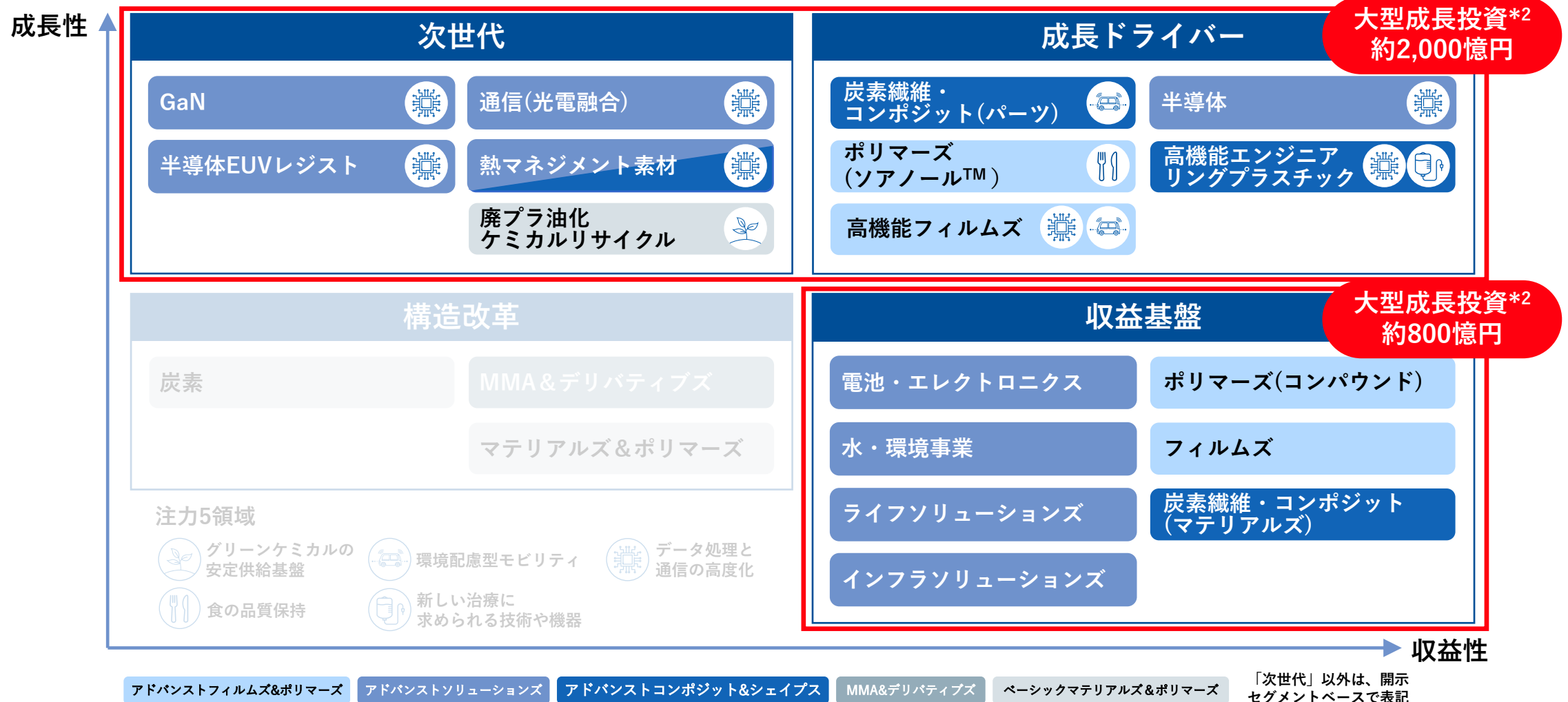
スペシャリティマテリアルズ
コア営業利益 (億円)



- 食の品質保持
- データ処理と通信の高度化
- 環境配慮型モビリティ
- 新しい治療に求められる技術や機器
- グリーン・ケミカルの安定供給基盤 他

※FY26予想における注力事業領域別の概算値

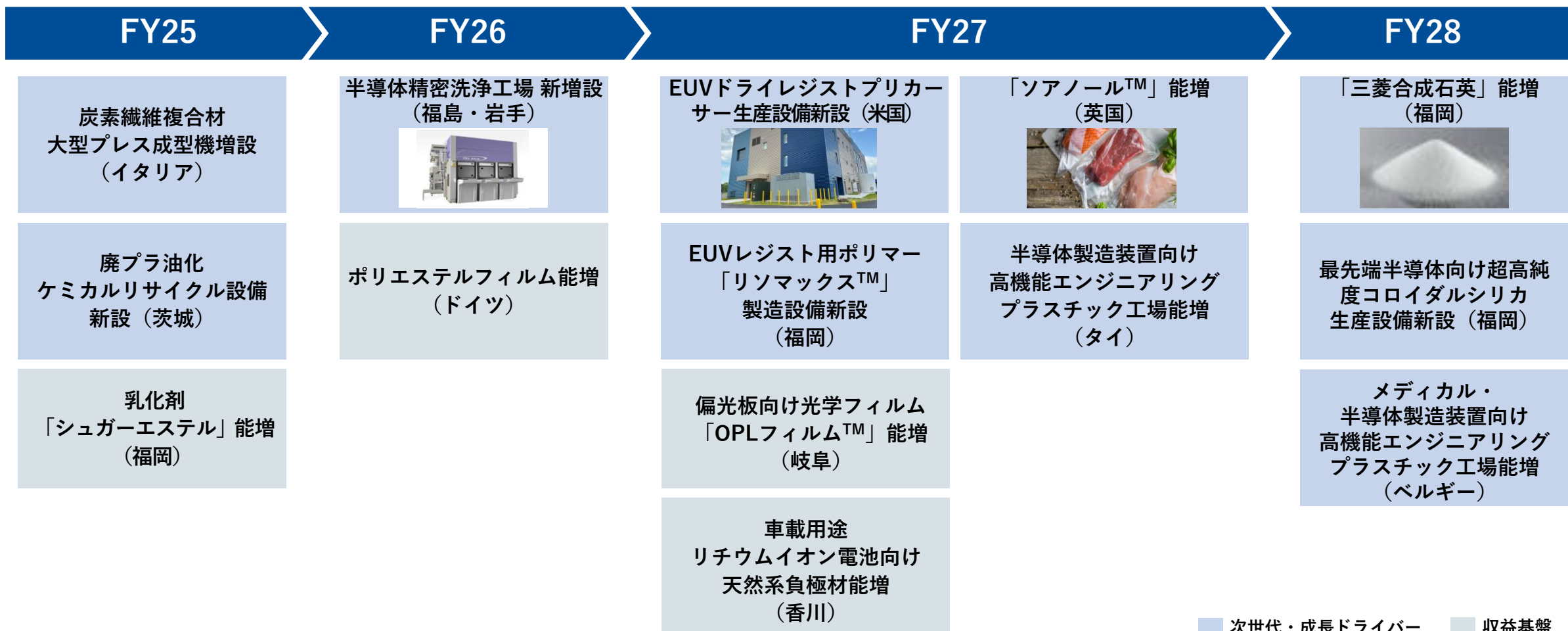
2025年度以降に商業運転開始予定の大型投資案件の配分



ケミカルズ主要成長投資計画

成長ドライバーを中心に積極的に投資を実行し、将来の利益成長を確実にする

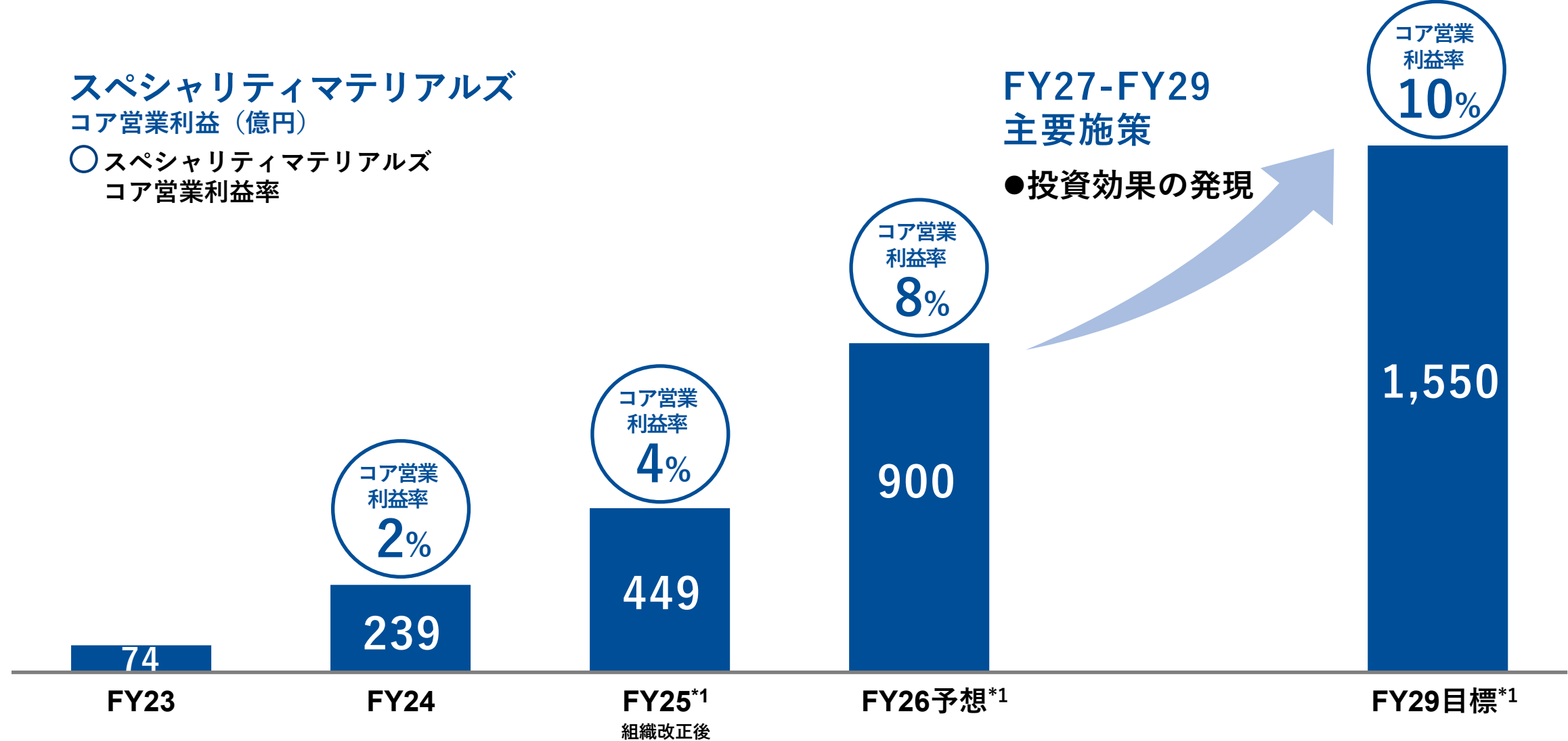
商業運転開始年度



次世代・成長ドライバー

収益基盤

FY29に向け、投資を刈り取り、成長を加速

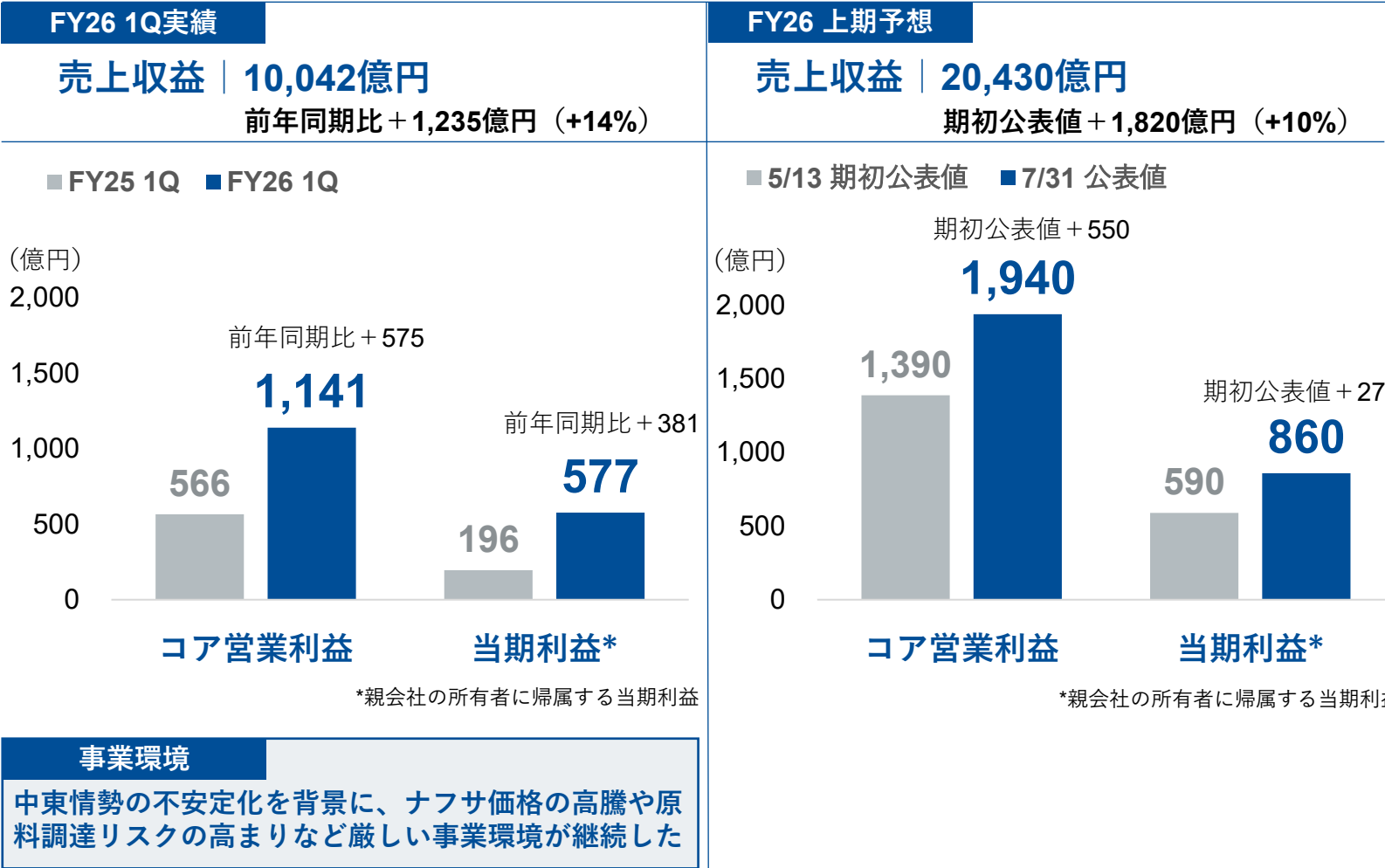


*1 2026年4月1日付の組織改正に伴い、2027年3月期以降の報告セグメント区分に基づき組み替えた数字で表示

業績ハイライト | 2027年3月期 第1四半期実績・上期業績予想



- 第1四半期は大幅増益。上期業績予想を上方修正
- 通期業績予想は据え置き。年間配当金予想は変更なし



増益の背景（前年同期比）

継続的な収益力の向上

- スペシャルティマテリアルズにおける継続的な価格政策の効果や、半導体関連製品の好調
- 産業ガスが堅調に推移
- コスト削減（+138億円）

市況・一時的要因

- 原料価格上昇局面で発現した在庫評価益（+485億円）
- MMAモノマーの市況上昇
- 中東情勢を背景とした顧客側での在庫確保による需要増

通期業績予想
据え置き

原料価格の先行きに不確実性が残るため

年間配当金予想
32円

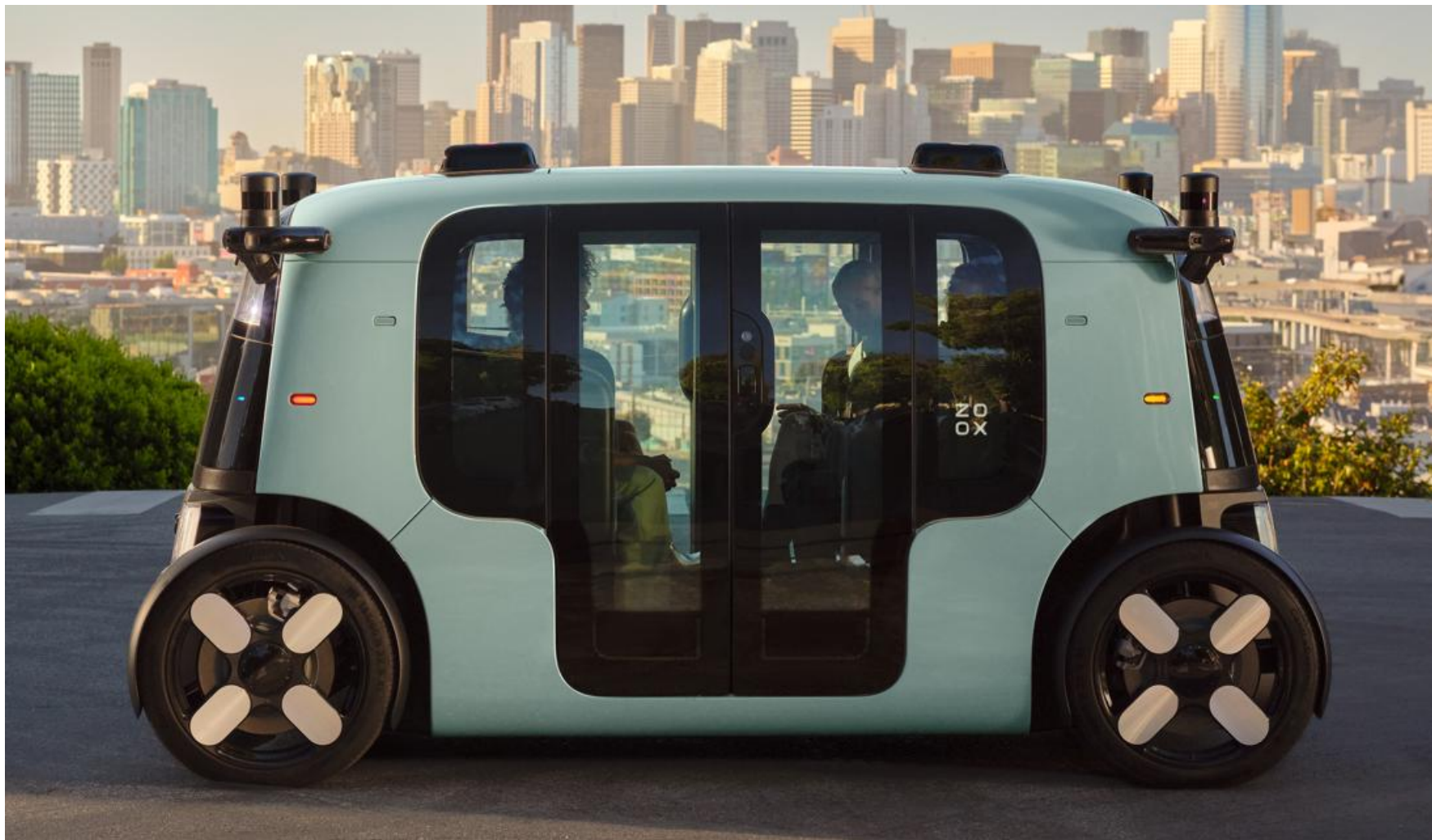
変更無し

目次

1	イントロダクション、会社概要	P2
2	事業変革 Purposeの実現に向けて	P15
3	成長戦略 「守り」から「攻め」へ	P25
4	株主還元、資本政策	P32
5	参考情報	P38
	(1) 財務情報	P39
	(2) 中期経営計画 2029	P41
	(3) 事業概要	P47
	(4) 外部からの評価、ブランディング	P60

次世代モビリティ“Zoox”

この車体、三菱ケミカルの炭素繊維複合材です



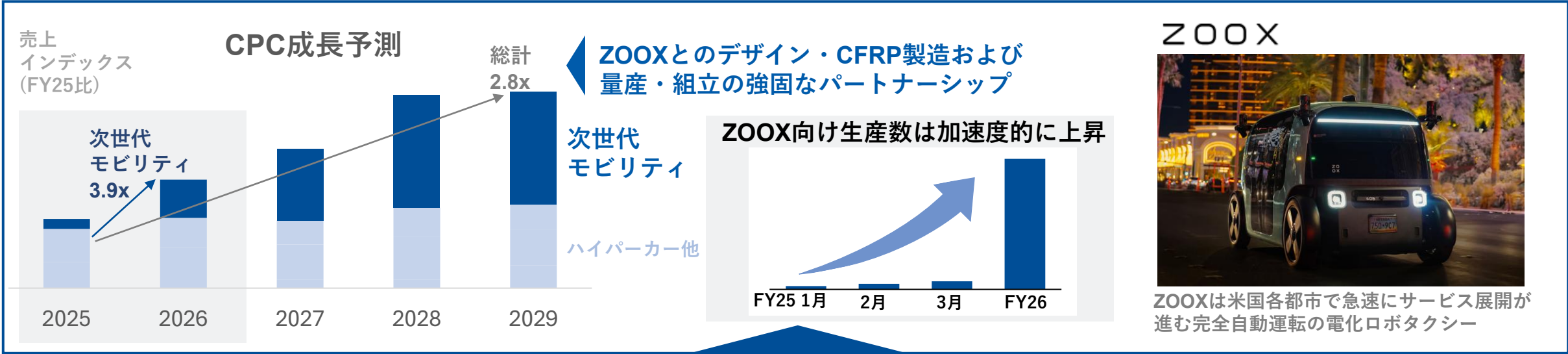
再生時間：30秒

動画はこちら



成果の刈り取り | キャッシュ創出フェーズへの本格的移行

FY26よりCPCにおける次世代モビリティ向けの量産・出荷を本格立上げ



当社のCF先端部材とCPCの加工技術の融合によるCFRPパーツのサイクルタイムの大幅短縮を実現

GROUP
CPC

FY23より
当社100%
グループ会社

加工技術

欧米の最先端自動車OEM向けの高品質
加工技術に裏付けられた歴史と信頼

世界有数の
大型プレス機

**MITSUBISHI
CHEMICAL
GROUP**

要求性能に応じて加工性能・剛性・強度を最適化
する多様なCFコンポジット中間品を展開

先端部材

Carbon Fiber FMC
(CF-SMC)

Thermoset Carbon
Fiber Prepreg

Carbon Fiber Reinforced
Plastics (CFRP) molded
products

炭素繊維・コンポジット | 事業戦略

川上事業の生産能力適正化および収益力の高い川下事業の能力増強により収益を拡大

次世代

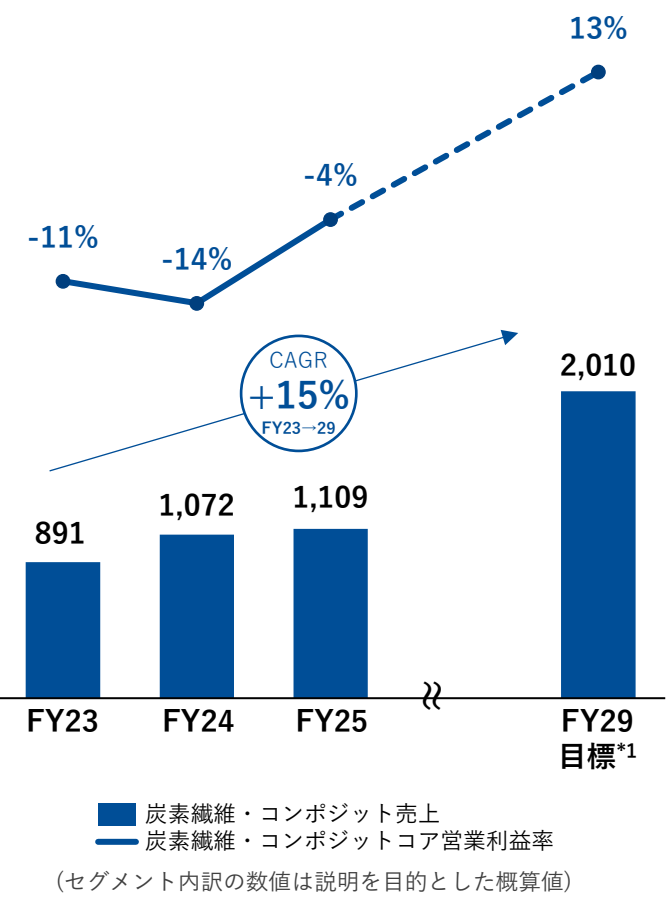
成長
ドライバー

構造
改革

収益
基盤

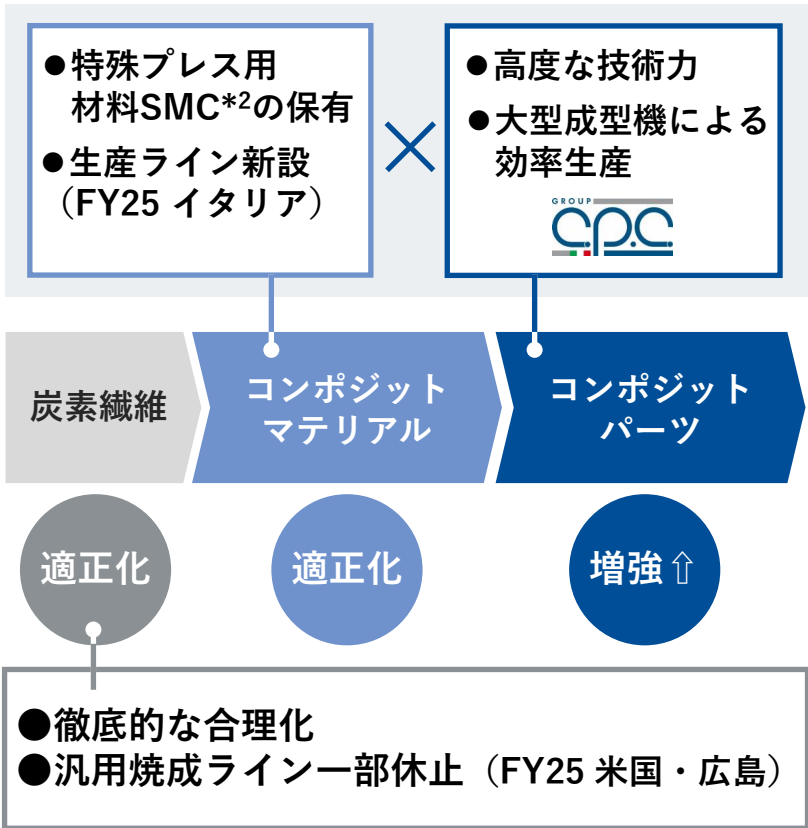
MITSUBISHI
CHEMICAL
GROUP

売上収益・利益率（億円）



炭素繊維チェーン生産能力

当社の強み



事業戦略と主要投資

成長ドライバー

CFRP
モビリティ 部品

- 主要市場：次世代モビリティ、ハイパーカー
- 欧米自動車OEM^{*3}との強固な商流ネットワークを活かしたオーダーメイド生産
- 世界最大級の大型プレス成型機増設により複雑構造部品の生産性を飛躍的に向上 (FY25)

収益基盤

高性能炭素繊維

- 主要市場：航空宇宙、スポーツ
- 航空用途の更なる獲得を目指しNCAMP^{*4}登録品拡充中
- 高付加価値ハイエンド品能増 (FY25 米国・愛知)

^{*1} 2024年11月公表の中期経営計画目標値を、2026年4月1日付の組織体系に合わせて組み替えを実施
^{*2} Sheet Molding Compound ^{*3} Original Equipment Manufacturer
^{*4} 航空機材料の米国民間認証機関。認証された規格や材料データは、米国連邦航空局（FAA）および欧州航空安全局（EASA）の規則に適合していると認められる。

市場開拓 | 航空・宇宙産業へのビジネス拡大

航空・宇宙産業での認定材料や独自の成形能力をてこにさらなる成長の機会を模索する

航空・宇宙領域での現在の採用実績



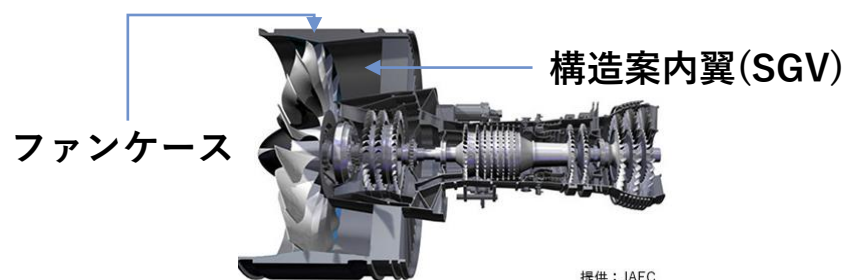
●航空機のシート等部材
プリプレグ



●航空機のフロア・内装
パネル



●通信衛星部材



●エアバス社A320 neo向けエンジン部材
PYROFIL™ CF



●航空機向けブレーキ部材

当社の素材の強みが生きる 新たな市場へ

ドローン



小型航空機・
次世代エア
モビリティ



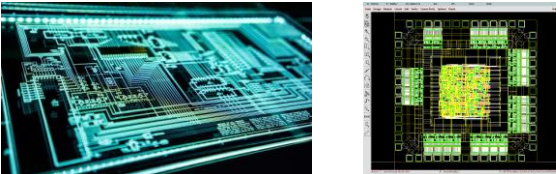
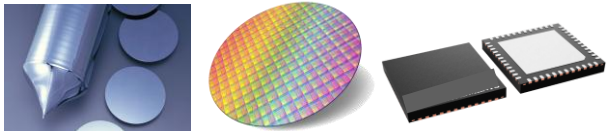
人工衛星



当社半導体関連製品・サービス ポートフォリオ

当社取扱製品・サービス

当社取扱製品

顧客	チップ設計			デバイス製造			製造装置		
									
Tier-1 主材料	薬液供給/回収	シリコンウェハ	高純度薬液	プロセスガス	MOR*2	プロセスガス	洗浄液	リードフレーム / ワイヤ	封止材
	水处理	GaN*1ウェハ	アルコール溶剤	バッファークोट膜	CAR*3		CMP*4パッド	フィルム / テープ	基板用材料
	精密洗浄			ブリカーサー	フォトマスク		CMP*4スラリー	ペースト / 絶縁材	
Tier-2 主材料	イオン交換樹脂	合成石英		シラン化合物	帯電防止剤	炭化水素	エンジニアリングシェイプス	アクリル接着剤	エポキシ樹脂
	PVC*5プレート	GaN*1基板		金属化合物	レジストポリマー	鉬物	砥粒	PETフィルム	無機フィラー
	超純水	金属シリコン			光酸発生剤		有機ポリマー	エポキシ接着剤	
製造工程	システム 製造装置	ウェハ → 洗浄 → 成膜 → リソグラフィ → エッチング → 研磨・平坦化 → 切断・ボンディング → 封止 他							
		前工程						後工程	

- *1 窒化ガリウム
- *2 金属酸化物レジスト
- *3 化学増幅型レジスト
- *4 化学機械研磨
- *5 ポリ塩化ビニル

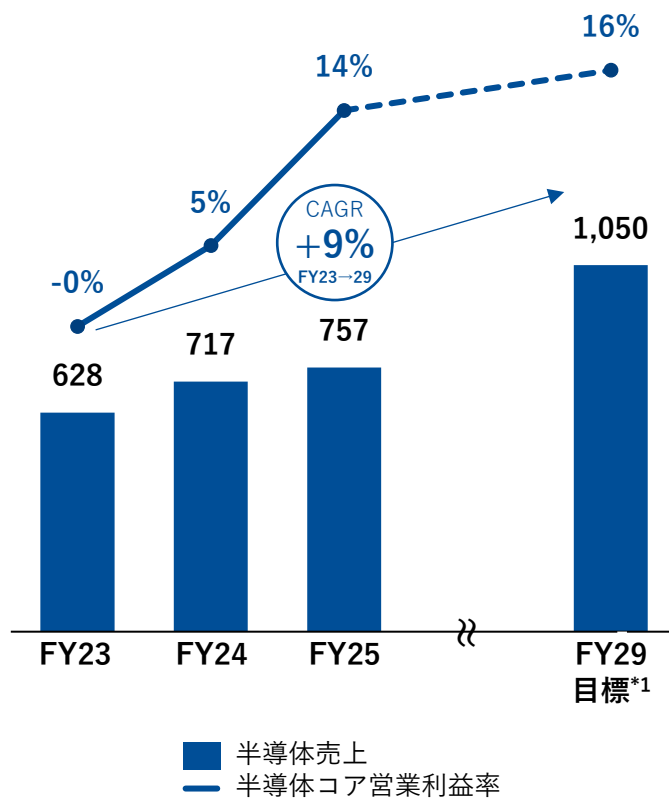
半導体マテリアル・サービス

世界の最先端半導体製造に不可欠な超高純度・超低異物な材料・サービスの供給による売上収益・利益の拡大

次世代

成長
ドライバー構造
改革収益
基盤

売上収益・利益率（億円）



(セグメント内訳の数値は説明を目的とした概算値)

事業戦略と主要投資

三菱合成石英



■ **世界シェア：100%^{*2}**
(300mm ウェハ生産用途)

■ **主要市場：半導体**
(シリコンウェハ)

300mm ウェハの生産に
不可欠なオンリーワン製品

- ニッチながら半導体製造における必須材料を提供
- 原料からの一貫プロセスと高度な品質管理で世界最高レベルの純度を実現
- 需要拡大に対応して生産能力増強 (FY28 福岡)

精密洗浄サービス



■ **世界シェア：日/亜・欧 No.1^{*2}**

■ **主要市場：半導体**
(製造装置)

TSMC等のグローバルトップ
プレイヤーから高い信頼

- 最先端デバイス向け認定精密洗浄サービスを提供
- 需要増に対応してFY26 工場新設・能増 (福島・岩手 2026年10月稼働開始)
- “TSMC 2024 Supply Chain Management Forum”にてGlobal Support Award受賞

EL塩酸



■ **国内シェア：No.1^{*2}**

■ **主要市場：半導体**
(シリコンウェハ洗浄)

40年以上の実績
塩酸 国内1位
硫酸 台湾2位

- 長距離輸送による品質変動リスクが非関税障壁となり、国内市場における競争優位性を確保
- 品質の信頼性が評価され、各社から主要サプライヤーに認定
- 半導体製造メーカー誘致による国内需要の拡大に対応して生産能力増強

^{*1} 2024年11月公表の中期経営計画目標値を、2026年4月1日付の組織体系に合わせて組み替えを実施

^{*2} FY26当社推定

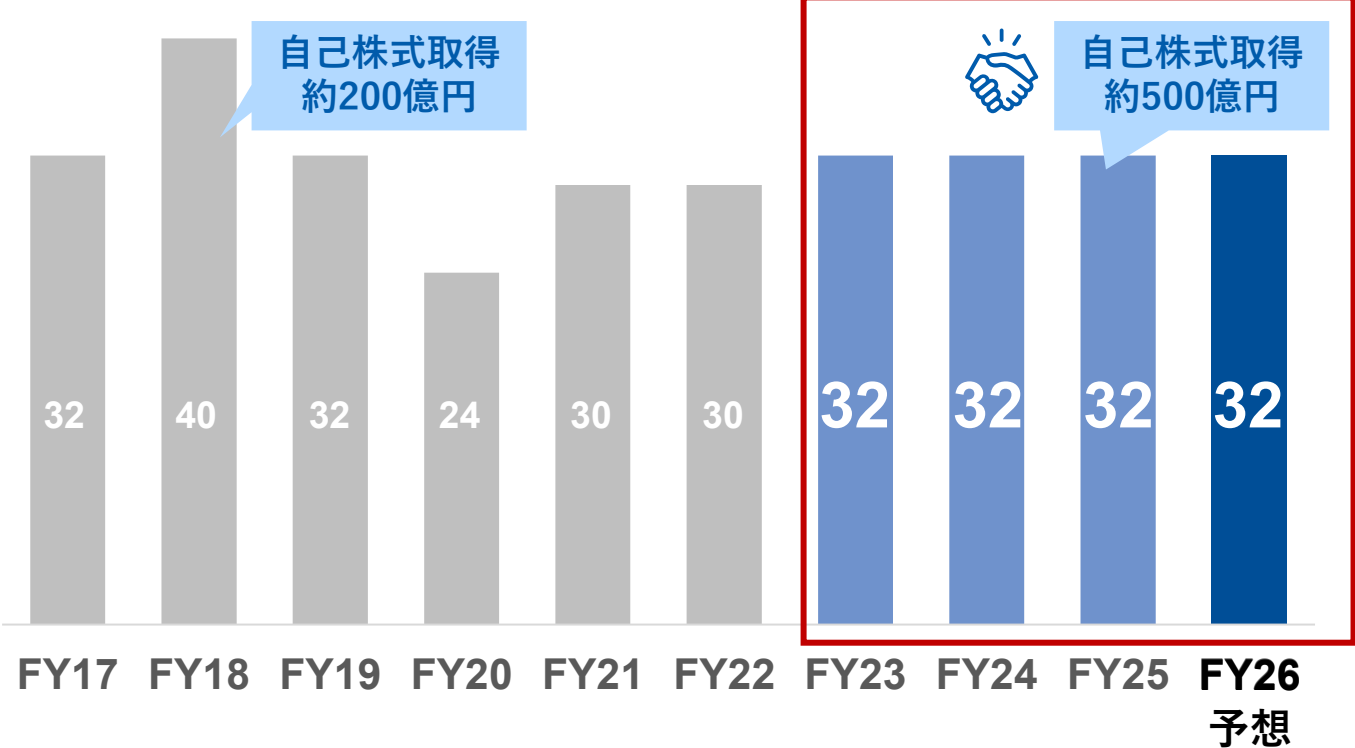
目次

1	イントロダクション、会社概要	P2
2	事業変革 Purposeの実現に向けて	P15
3	成長戦略 「守り」から「攻め」へ	P25
4	株主還元、資本政策	P32
5	参考情報	P38
	(1) 財務情報	P39
	(2) 中期経営計画 2029	P41
	(3) 事業概要	P47
	(4) 外部からの評価、ブランディング	P60

株主還元方針

配当性向目安35%、年間32円を下限とし、利益成長に応じた増配を目指す
資本効率や財務状況などを踏まえ、機会に応じた追加的な自己株式取得も検討

年間配当（円/株）の推移



株主還元方針

- 利益成長に応じて配当増加を図る
配当性向目安 35%
- 機会に応じて追加的な自社株買いを検討

1株当たり年間配当32円を下限

安定配当を基盤に、
利益成長の成果を
株主の皆さまへ還元します。

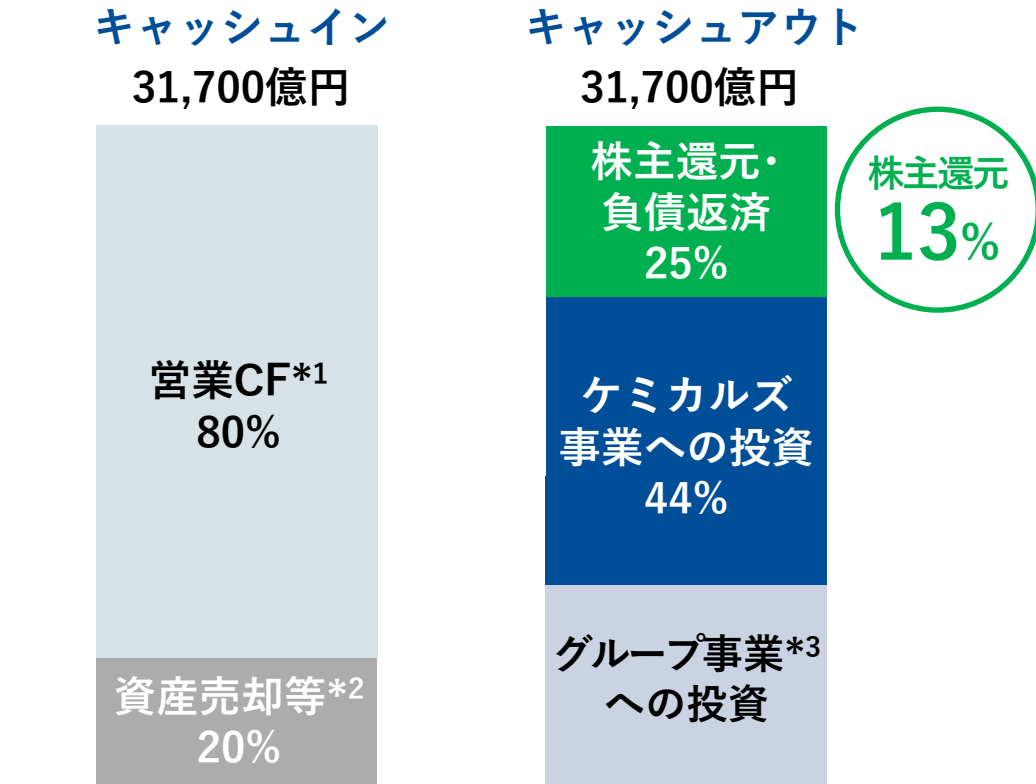
配当性向	21.7	33.6	84.0	-	24.1	44.2	38.1	101.2	370.8	34.2 %
配当利回り	3.10	5.13	4.98	2.89	3.67	3.82	3.49	4.34	3.56	2.75 %※

※2026年9月28日終値1,161.0円を基準

キャピタルアロケーション方針

規律をもった財務運営の下、成長投資を優先しつつ、利益成長の成果を確実に株主と共有

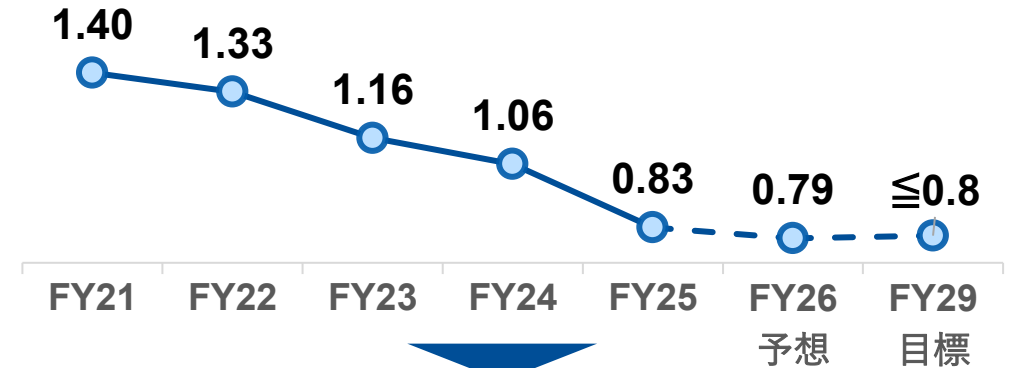
キャピタルアロケーション (FY25-29)



財務方針

● ネットD/Eレシオ0.8以下を目安に、財務健全性を維持しつつ、資本効率のバランスを図る

ネットD/Eレシオの推移



健全な財務基盤を
成長投資と安定的な株主還元につなげます。

*1 営業CF = 税前利益（研究開発費計上後）+ 減価償却費 + その他営業CF（法人税支払 等）

*2 運転資金圧縮と事業売却収入

*3 産業ガス事業に関しては、日本酸素ホールディングス株式会社が2022年に策定した「NS Vision 2026」を基に、継続的な需要成長および価格マネジメント、生産性向上等の効果を織り込み、三菱ケミカルグループ株式会社が独自に推定

2024年4月からの3年間で収益力を高め、株主価値の向上を結果で示す

構造改革の実行から、成長成果の創出へ — 市場評価は着実に変化

3年間の
コミットメント

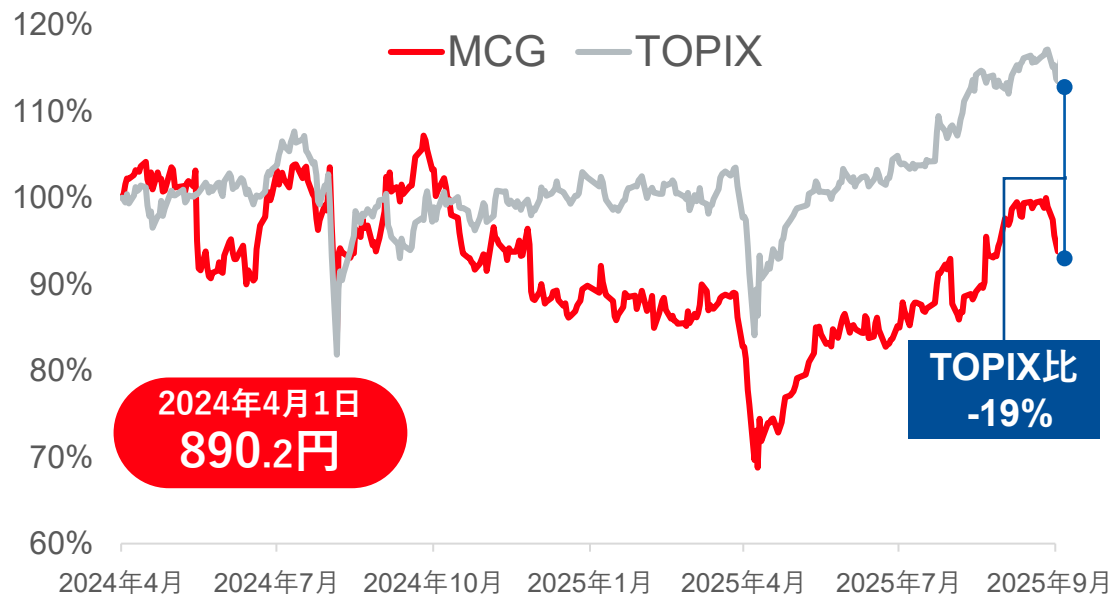
前半 | 経営体制の移行・構造改革

PHASE 1

期間：2024年4月1日～2025年9月30日

改革を断行

- 2024年4月の経営陣交代を経て以降、構造改革を実行
- 当社（MCG）株価はTOPIXをアンダーパフォーム



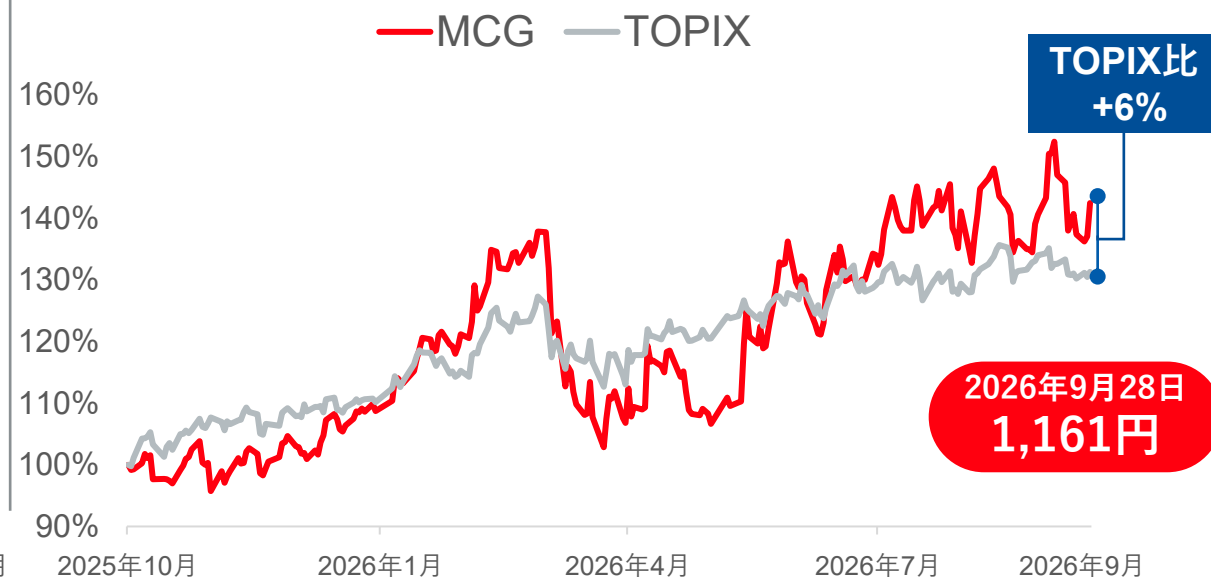
後半 | 改革の進捗と成果の顕在化

PHASE 2

期間：2025年10月1日～2026年9月28日

成果が株価に

- 事業ポートフォリオ改革が進展し、スペシャリティマテリアルズが成果を創出
- 市場からの評価を受け、当社株価はTOPIXをアウトパフォーム



- ▶ 経営方針を浸透させ、すべての従業員のパフォーマンスを最大化する
- ▶ 経験と実績、実行力を有し、相互に信頼できるベストな経営陣で運営する
- ▶ 2024年4月からの3年間で、明確な改善を示す
- ▶ 株主価値と経営陣の報酬体系を強く紐づけ、株主の負託に結果で応える

「守り」から「攻め」へ転じ、
三菱ケミカルグループの未来を切り拓く



本説明会*および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により三菱ケミカルグループ株式会社（以下、「当社」）が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは各種機能商品、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。

数値はすべて四捨五入されており、予測はすべて概算値です。

本資料において、2026年度業績予想はすべて2026年7月31日に公表した数値を前提としています。

*ここで記す「説明会」とは、三菱ケミカルグループ株式会社によって説明または配布された本資料、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を含みます。

目次

1	イントロダクション、会社概要	P2
2	事業変革 Purposeの実現に向けて	P15
3	成長戦略 「守り」から「攻め」へ	P25
4	株主還元、資本政策	P32
5	参考情報	P38
	(1) 財務情報	P39
	(2) 中期経営計画 2029	P41
	(3) 事業概要	P47
	(4) 外部からの評価、ブランディング	P60

スペシャルティマテリアルズ セグメント別内訳

		(億円)							コア営業利益率		
		26/3月期 実績					27/3月期 実績	30/3月期 目標	26/3月期	27/3月期	30/3月期
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	累計	累計	1Q	累計
スペシャルティマテリアルズ	売上収益	2,859	2,930	2,951	3,038	11,778	3,325	15,700	-	-	-
	コア営業利益	174	223	147	△ 95	449	383	1,550	4%	12%	10%
フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ	売上収益	978	959	980	940	3,857	1,049	4,610	-	-	-
	コア営業利益	98	89	74	△ 247	14	152	500	0%	14%	11%
フィルムズ	売上収益	724	689	721	641	2,775	731	-	-	-	-
	コア営業利益	64	49	53	22	188	91	-	7%	12%	-
パフォーマンスマテリアルズ	売上収益	252	267	255	296	1,070	317	-	-	-	-
	コア営業利益	36	40	21	△ 261	△ 164	67	-	△15%	21%	-
コンポジット&シェイプス	売上収益	587	588	627	720	2,522	790	3,720	-	-	-
	コア営業利益	△ 13	3	△ 9	50	31	64	420	1%	8%	11%
エンジニアリングシェイプス	売上収益	368	372	367	415	1,522	467	-	-	-	-
	コア営業利益	22	24	4	40	90	51	-	6%	11%	-
炭素繊維・コンポジットエンジニアリング	売上収益	210	207	252	296	965	312	-	-	-	-
	コア営業利益	△ 28	△ 15	△ 4	8	△ 39	17	-	△4%	5%	-
情報電子	売上収益	406	436	442	469	1,753	477	2,890	-	-	-
	コア営業利益	6	43	11	33	93	58	220	5%	12%	8%
半導体	売上収益	178	190	188	201	757	215	-	-	-	-
	コア営業利益	26	28	26	23	103	48	-	14%	22%	-
電池・エレクトロニクス	売上収益	164	182	190	194	730	188	-	-	-	-
	コア営業利益	3	38	12	22	75	20	-	10%	11%	-
ポリマーコンパウンズ	売上収益	537	580	562	575	2,254	676	2,800	-	-	-
	コア営業利益	54	50	49	51	204	85	230	9%	13%	8%
水・インフラ	売上収益	351	367	340	334	1,392	333	1,680	-	-	-
	コア営業利益	29	38	22	18	107	24	180	8%	7%	11%
水・環境ソリューション	売上収益	142	159	128	142	571	138	-	-	-	-
	コア営業利益	14	27	4	8	53	8	-	9%	6%	-
インフラソリューション	売上収益	186	193	196	181	756	195	-	-	-	-
	コア営業利益	15	14	21	12	62	15	-	8%	8%	-

*セグメント内訳の数値は、説明を目的とした概算値であります。

売上収益・コア営業利益・コア営業利益率

中期経営計画 目標値*

中期経営計画 目標値*

		(億円)	FY2025 実績	FY2026 予想	FY2027 目標	FY2028 目標	FY2029 目標	FY2025 実績	FY2026 予想	FY2027 目標	FY2028 目標	FY2029 目標
スペシャルティマテリアルズ	売上収益		11,778	12,370	14,220	15,010	15,700	-	-	-	-	-
	コア営業利益		449	900	1,090	1,290	1,550	4%	7%	8%	9%	10%
フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ	売上収益		3,857	3,840	4,240	4,420	4,610	-	-	-	-	-
	コア営業利益		14	340	380	440	500	0%	9%	9%	10%	11%
コンポジット&シェイプス	売上収益		2,522	2,830	3,340	3,550	3,720	-	-	-	-	-
	コア営業利益		31	120	280	330	420	1%	4%	8%	9%	11%
情報電子	売上収益		1,753	1,860	2,580	2,800	2,890	-	-	-	-	-
	コア営業利益		93	110	110	170	220	5%	6%	4%	6%	8%
ポリマーコンパウンズ	売上収益		2,254	2,430	2,540	2,660	2,800	-	-	-	-	-
	コア営業利益		204	210	180	200	230	9%	9%	7%	8%	8%
水・インフラ	売上収益		1,392	1,410	1,520	1,580	1,680	-	-	-	-	-
	コア営業利益		107	120	140	150	180	8%	9%	9%	9%	11%

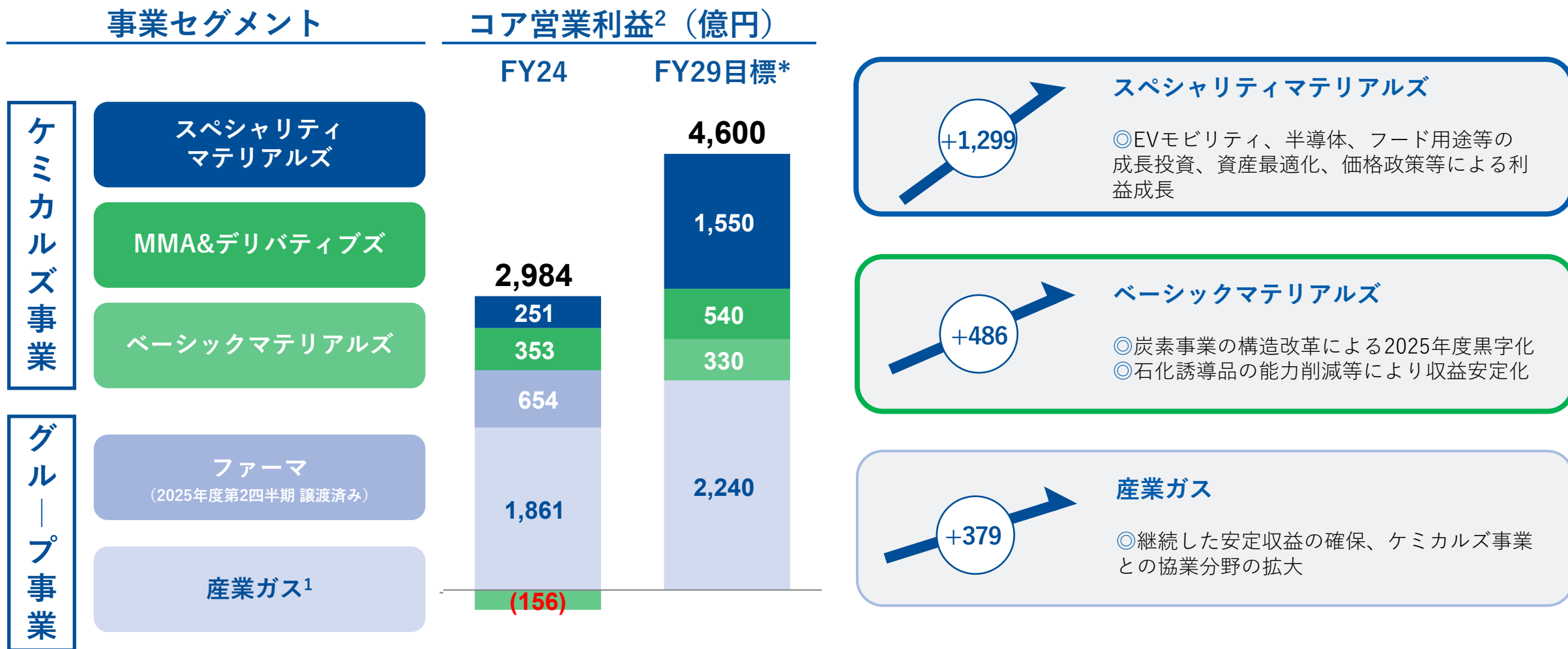
中期経営計画 目標値*

ROIC

	FY2025 実績	FY2026 予想	FY2027 目標	FY2028 目標	FY2029 目標
スペシャルティマテリアルズ	3.1%	5.4%	6.6%	8.0%	9.5%
フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ	0.5%	6.2%	7.0%	8.3%	9.6%
コンポジット&シェイプス	0.7%	2.3%	5.7%	6.7%	8.5%
情報電子	3.2%	3.4%	3.3%	5.2%	6.6%
ポリマーコンパウンズ	13.1%	12.1%	11.5%	12.4%	13.8%
水・インフラ	13.3%	13.8%	16.9%	17.4%	20.1%

中期経営計画 2029 セグメント別目標 (ファーマ事業譲渡後)

ケミカルズ事業を全社で最も稼ぐ事業にする

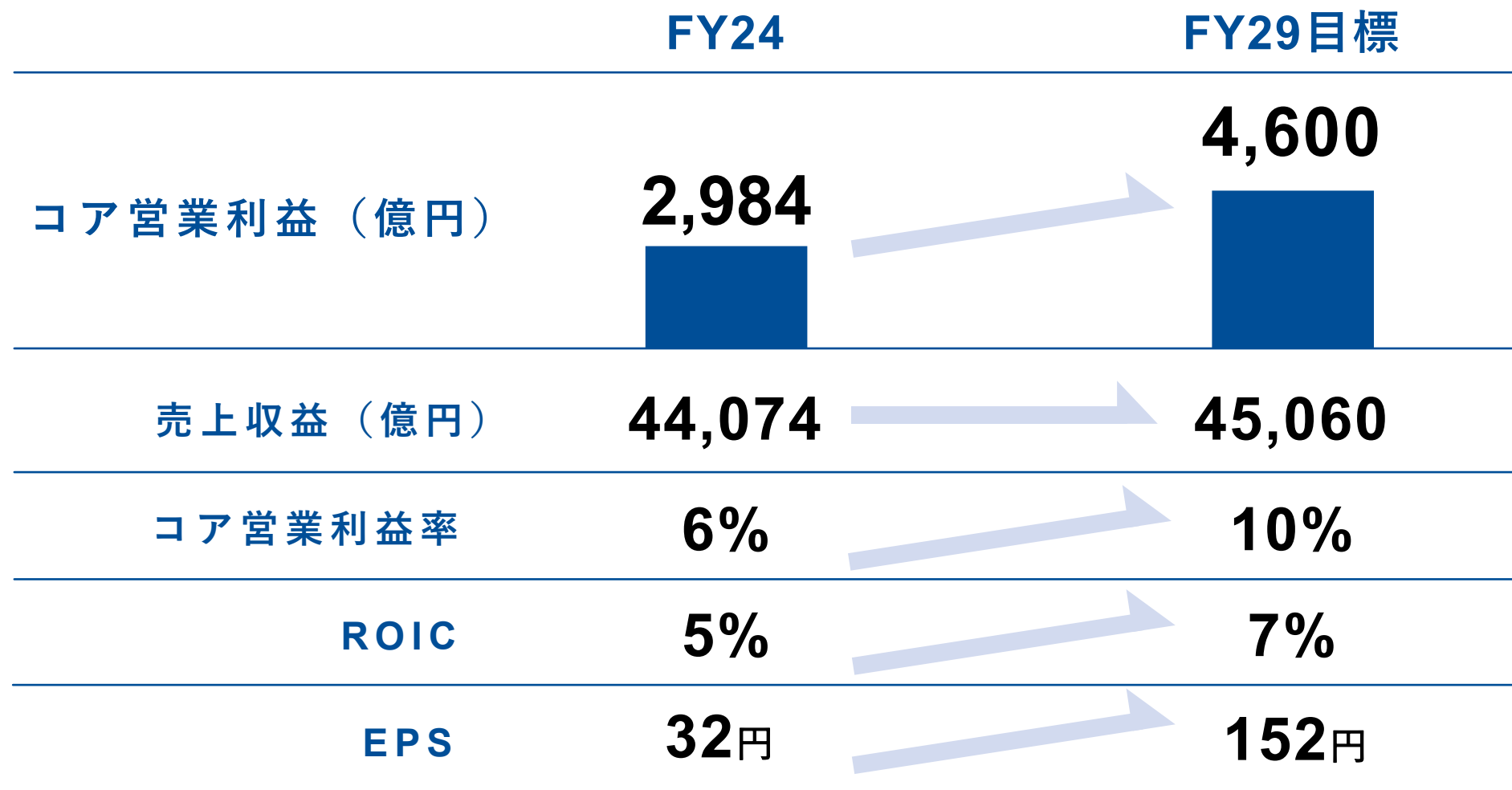


1 産業ガス事業に関しては、日本酸素ホールディングス株式会社が2022年に策定した「NS Vision 2026」を基に、継続的な需要成長および価格マネジメント、生産性向上等の効果を織り込み、当社が独自に推定。

2 合計値は、その他調整項を含む。ただし、グラフ上は、その他調整項は非表示であるため、セグメント合計と実際の合計は一致しない。

* 2026年4月1日組織再編後の事業セグメント目標値で記載

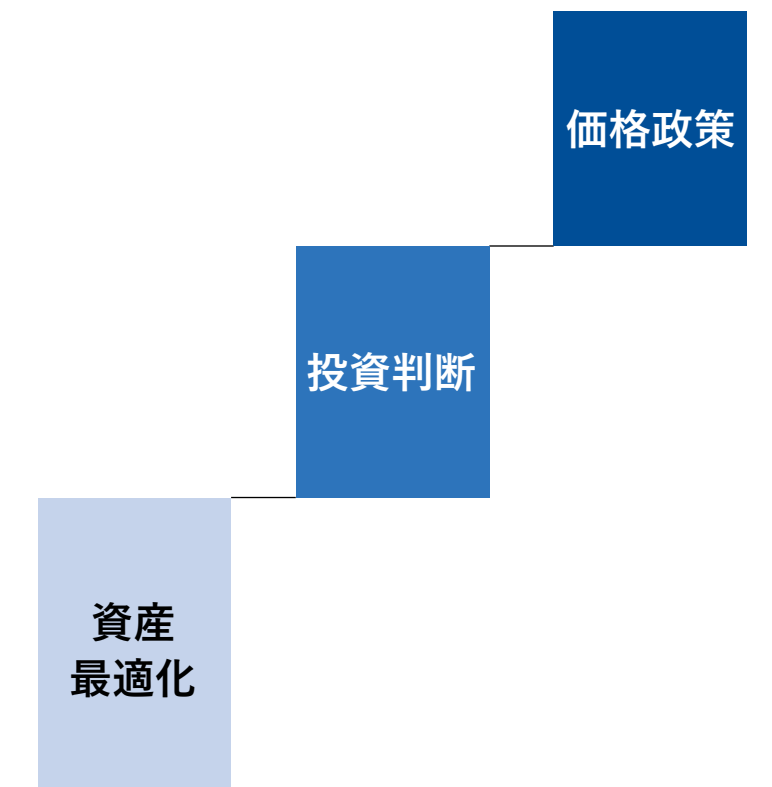
中期経営計画 2029 財務目標 (ファーマ事業譲渡後)



中期経営計画 | 基本方針

規律ある事業運営により、「3原則」に則した施策効果として、
FY29までにケミカルズ事業で1,400億円の収益貢献増 (FY24比)を目指す

FY29までの収益貢献
コア営業利益 約**1,400**億円



規律ある事業運営の3原則

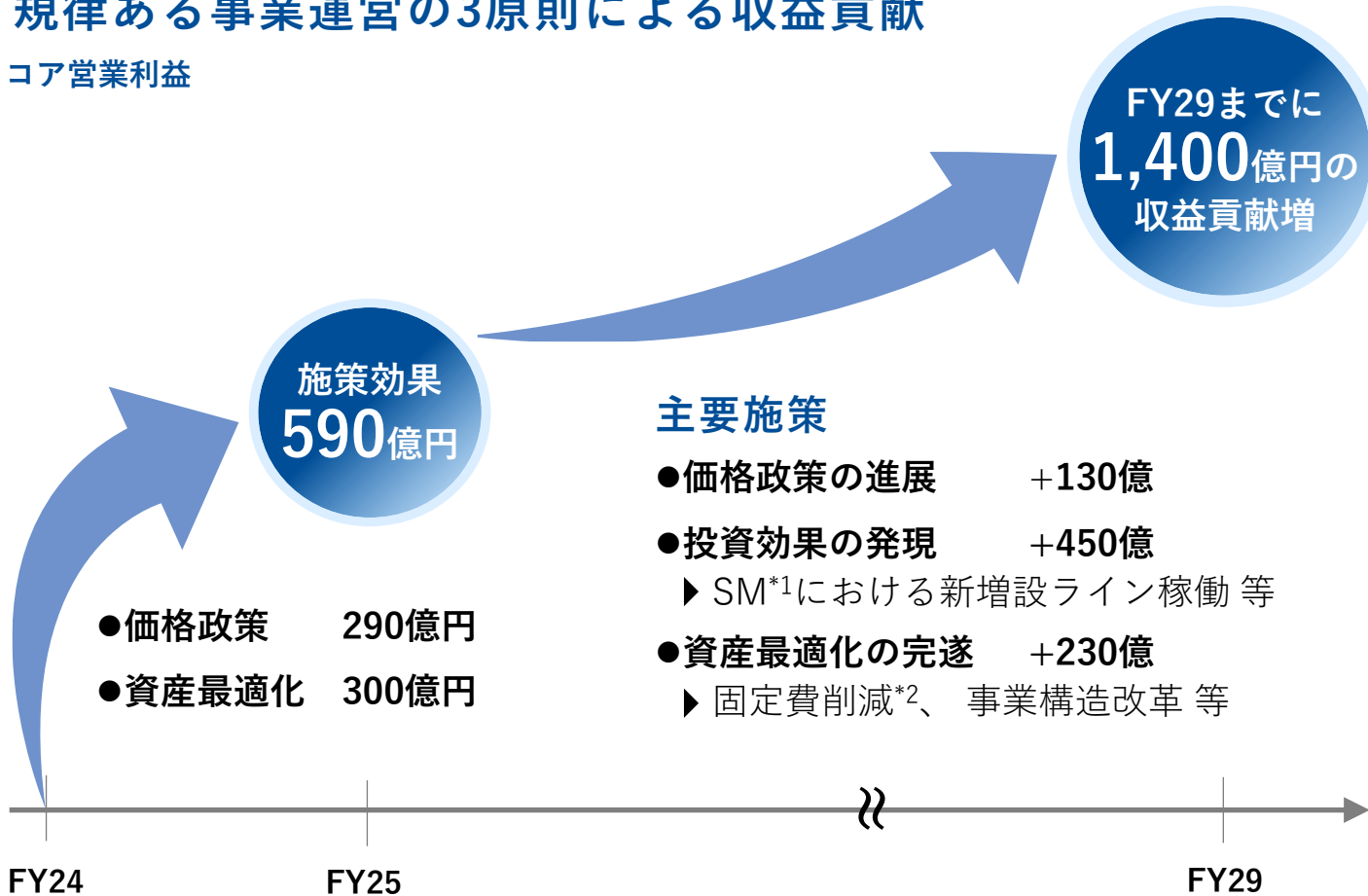
価格政策	●付加価値に見合う価格設定 ●より高付加価値な製品へのミックスシフト ●ボラティリティを抑制する価格体系の導入
投資判断	●厳格な選別 ●プロセス管理の徹底とレビュー強化 ●タイミングを逃さない迅速な判断
資産最適化	●余剰設備の合理化 ●業務と人材の最適化 ●他社との協力・協業による設備やリソースの最適化 ●知的財産を含めた無形資産の再評価

規律ある事業運営の3原則の成果

迅速な施策の実行により、FY25上期時点で通年590億円の成果に目途をつけ、FY29までの収益貢献目標1,400億円を射程圏内に（進捗率42%）

規律ある事業運営の3原則による収益貢献

コア営業利益



FY25取り組み成果

価格政策

- 付加価値に基づくプライシング
- ネガティブマージン取引撲滅

投資判断

- 厳格な投資選別と実施後のレビュー
- 次世代・成長ドライバーへの重点投資（約70%^{*3}）

資産最適化

- コスト構造改革による収益改善
- 事業整理・売却（売上収益相当）

- ▶ 中 計 目 標：約4,000億円
- ▶ FY24-25実行：約3,800億円
 - + 田辺三菱 約4,600億円
- ▶ 後述の事業ポートフォリオの明確化と成長戦略に合わせて継続的に取り組む

^{*1} スペシャリティマテリアルズ ^{*2} ネクストステージ支援プログラムによる固定費削減約160億円を含む

^{*3} FY25意思決定予定の大型投資案件（10億円以上）の内、次世代および成長ドライバー（p.12参照）に位置する事業への成長投資金額割合

事業ポートフォリオの明確化

事業ポートフォリオにおける各事業の位置づけを明確化し、
次世代・成長ドライバーに経営資源を集中

事業ポートフォリオの明確化

事業選別の3つの基準

- Visionとの整合性
- 競争優位性
- 成長性



基準に満たない事業は
整理ポストへ



撤退

成長性（売上収益成長率）



収益性（コア営業利益率）

KAITEKI Vision 35 注力事業領域



グリーン・ケミカルの
安定供給基盤



環境配慮型モビリティ



データ処理と通信の
高度化



食の品質保持



新しい治療に求められる
技術や機器

ケミカルズ事業*1ポートフォリオ

—2025年12月18日 経営方針説明会（IR Day 2025）資料より—

収益基盤でキャッシュを創出し、次世代・成長ドライバーに資源を重点配分



アドバンスフィルムズ&ポリマーズ

アドバンスソリューションズ

アドバンスコンポジット&シェイプス

MMA&デリバティブズ

ベーシックマテリアルズ&ポリマーズ

「次世代」以外は、開示セグメントベースで表記

*1 2026年4月1日付の組織改正に伴い、2027年3月期より報告セグメント区分を変更しておりますが、変更前のセグメント区分で表示

事業概要 | スペシャルティマテリアルズ

フィルムズ & パフォーマンスマテリアルズ

フィルムズ

食品包装材、工業フィルム（産業・メディカル）アセチル・光学フィルムズ（OPLフィルム等）、ポリエステルフィルム

スペシャルティフィルムズ

- ・ バリア性、易開封性など様々な機能を付加した製品を食品市場へ提供
- ・ LCD用偏光板向けのPVOHフィルムを提供。世界シェア35%（当社推定）



ポリエステルフィルムズ

- ・ LCD用離形フィルム、MLCC用高平滑フィルム等に対応する様々な特性を持つ。世界シェア20%（当社推定）



パフォーマンスマテリアルズ

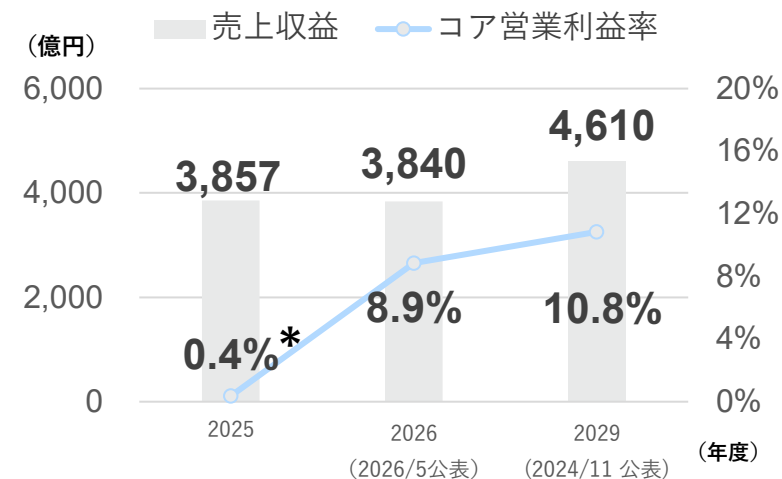
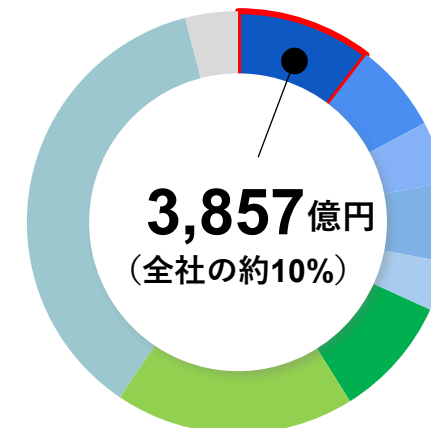
アセチルポリマーズ（EVOH等）、食品機能材等

アセチルポリマーズ

- ・ 高いガスバリア性能を有し、食品包装用途を中心に世界シェア35%（当社推定）



2025年度 売上収益



*ソアノール関連固定資産の減損△303億円を含む。それを除けば8.2%

事業概要 | スペシャルティマテリアルズ

コンポジット & シェイプス

コンポジット & シェイプス

エンジニアリングシェイプス、炭素繊維・コンポジット

エンジニアリングシェイプス

- エンジニアリングプラスチック素材のグローバルリーダーとして、半導体、医療、産業機械、自動車、など幅広い分野で展開
- 半導体製造装置用途：前工程から後工程に至るまで幅広い製品ラインナップ
- メディカル用途：インプラント用ストックシェイプの広範なポートフォリオを展開

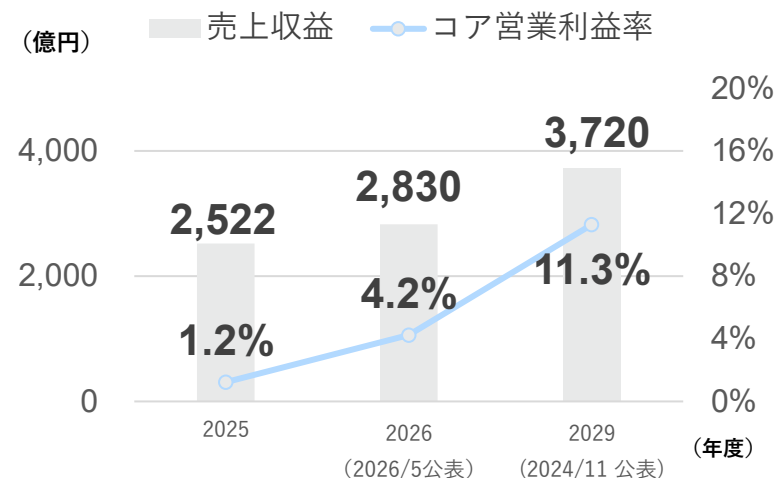
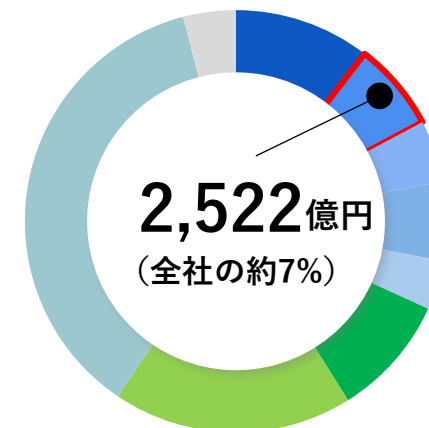


炭素繊維・コンポジット

- 軽量かつ高強度な炭素繊維複合材で、自動車や航空機の軽量化に貢献
- 旺盛な需要を背景に、次世代モビリティ等の高付加価値用途に集中する



2025年度 売上収益



事業概要 | スペシャリティマテリアルズ

情報電子

半導体

合成石英、精密洗浄サービス、EL薬品、フォトリソグラフィ材料、特殊エポキシ樹脂

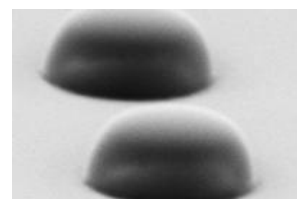
- 世界の最先端半導体製造に不可欠な超高純度・超低異物な材料・サービスを提供
 - 合成石英：シリコンウェハ製造用石英るつぼ内装に適用され、300mmシリコンウェハ製造には当社合成石英が必須
 - 精密洗浄サービス：半導体製造装置のチャンバー・パーツの洗浄サービス
 - EL薬品：半導体製造工程におけるシリコンウェハの洗浄に用いられる



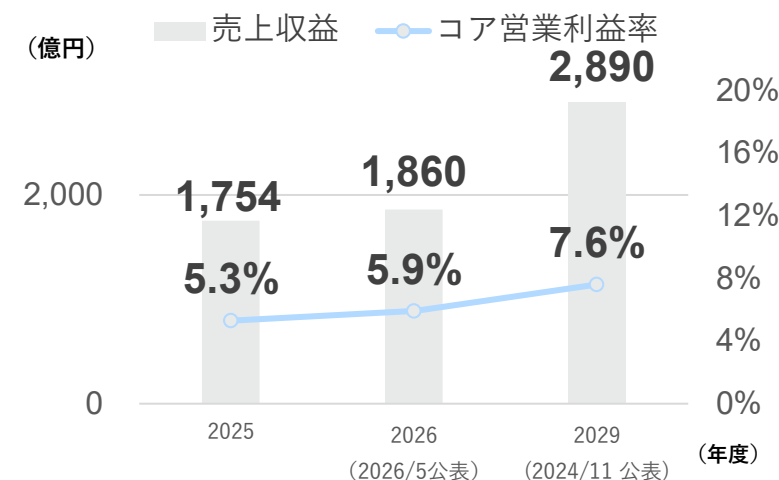
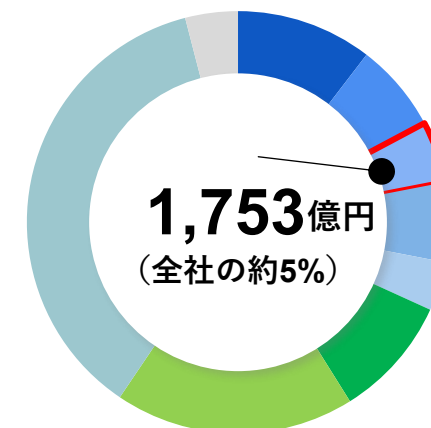
電池・エレクトロニクス

電池材料（電解液、負極材）、OLED向け有機材料

- 電解液・負極材：電気自動車向けを中心とした車載用途のリチウムイオン電池向け
- OLED向け有機材料：塗布型プロセスでの製造を可能とするIJ-OLED向けインク材料



2025年度 売上収益



事業概要 | スペシャルティマテリアルズ

ポリマーコンパウンズ

ポリマーコンパウンズ

エアバッグカバー材、電装部品材、バッテリーカバー材、輸液
高耐熱・難燃電線被覆材

- ・ 独自のコア技術・ノウハウを活かして、多様化・複雑化する顧客ニーズに対して最適なソリューションを提供
- ・ 顧客の製品開発段階から関与し、顧客との共創の中で独自ソリューションが広範なプロセスに影響し、市場・顧客でのデファクトスタンダードとなる
- ・ 安定成長市場における高い参入障壁の構築、第三者を含めた既存汎用設備の有効活用を通じ、安定成長且つ高ROICの両立を実現する

■ 例

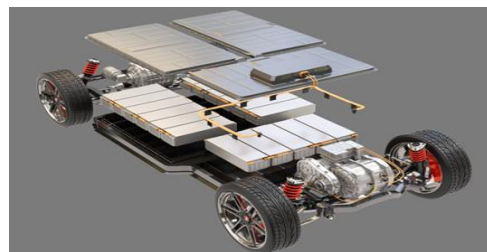
自動車・エアバックカバー材

(グローバルシェア50%超)

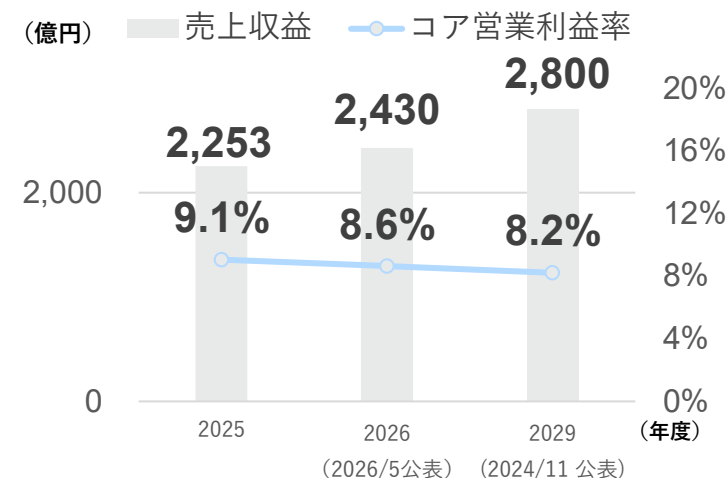
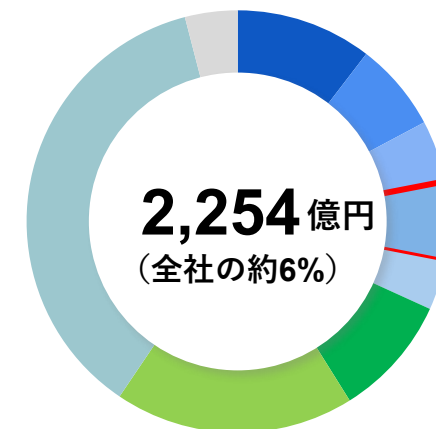


自動車・バッテリーカバー材

(熱可塑性複合材バッテリーカバー業界初)



2025年度 売上収益



水・インフラ

水・インフラ

イオン交換樹脂、水処理プラント、住宅・建設資材

- ・ 自社の「機能材」を核に、「加工成形技術」と「エンジニアリング」の知を結集し、新しい化学のソリューションを提供。
- ・ 半導体装置・データセンター向けに高機能材料（ヒシプレート（PVCプレート）、アルポリック（アルミ樹脂複合板）等）の展開強化。
- ・ 生成AI向け半導体パッケージ工場・データセンター向けの水処理システムの導入拡大。



▲アルポリック™



▲ヒシプレート™



▲ヒシクーリングタワー™角型



▲ヒシタンク™

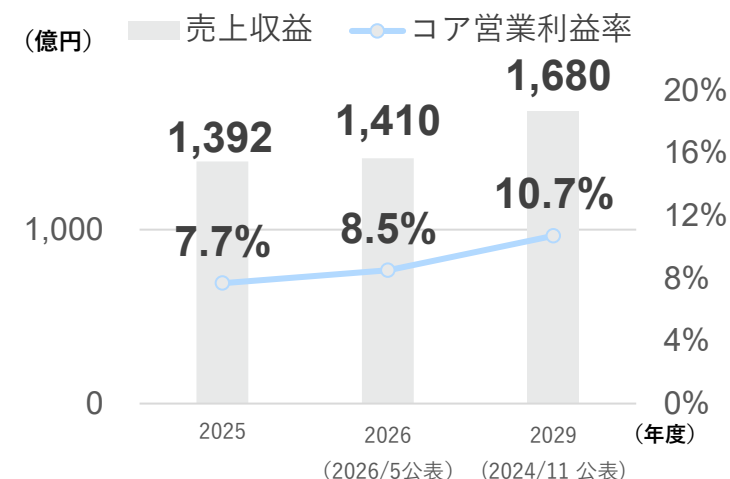
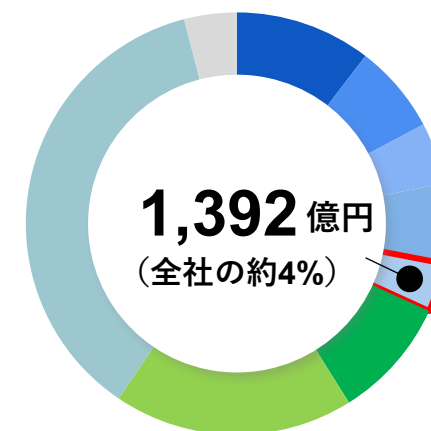


▲水処理設備



▲イオン交換樹脂

2025年度 売上収益



MMA & デリバティブズ

MMA

MMAモノマー、PMMA

幅広い用途展開

- 自動車のランプカバー、店舗の看板標識、照明器具、液晶導光板、水族館の水槽、接着剤、塗料など

世界シェア約30%のNo.1サプライヤー

- 世界で唯一 3 製法を保有し、高い競争優位性
2018年 サウジアラビアで世界最大規模の工場を稼働
2025年 米国新設計画の検討中止を発表



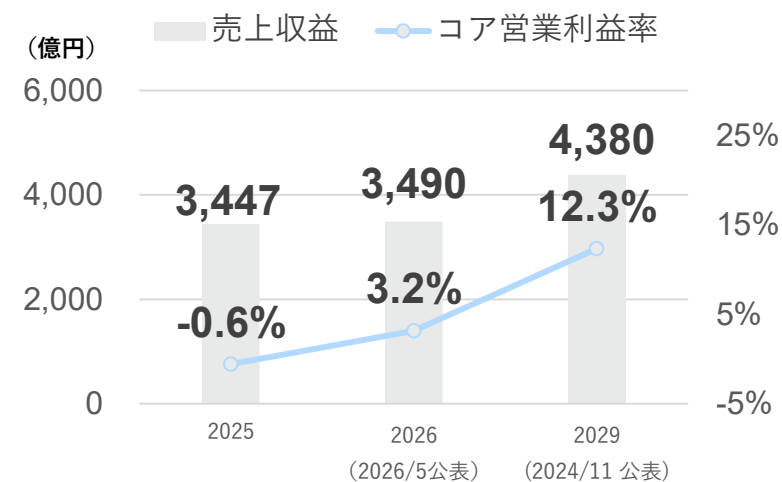
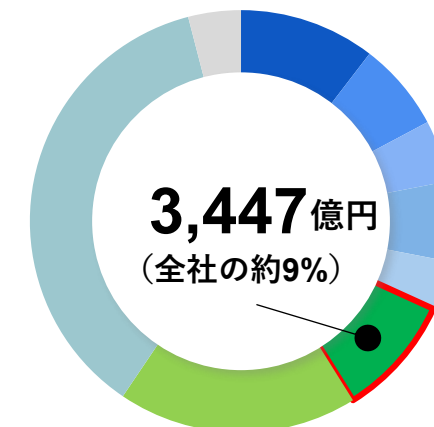
機能化学品

コーティング材料、機能性添加剤、ファインケミカルズ

高度な合成、配合などの高い技術力から自動車用途を中心に様々な分野に付加価値を提供



2025年度 売上収益



基礎化学品

基礎化学品

石化原料、ナフサ由来誘導品、ポリオレフィン

事業概要

- ・ 茨城と岡山※にエチレンプラントを保有
- ・ クラッカー～誘導品までのプロダクトチェーンを保有



構造改革

※ 岡山のエチレンプラントは旭化成（株）・三菱ケミカル折半出資の三菱ケミカル旭化成エチレンが保有

- ・ 2027年度中に分社化予定
- ・ 岡山のエチレンプラントは2030年度を目途に設備を停止予定
- ・ アライアンスを通じ、石油化学事業の競争力を一層強化、国内産業のサプライチェーンの強靱化、日本の経済安全保障に貢献し、責任を持ってこれを遂行し続けていく体制の構築を目指す

検討の背景

- ▶ 日本国内外での需要減
- ▶ 海外、特に東アジアでの競争力低下
- ▶ グリーン化の要請

検討の狙い

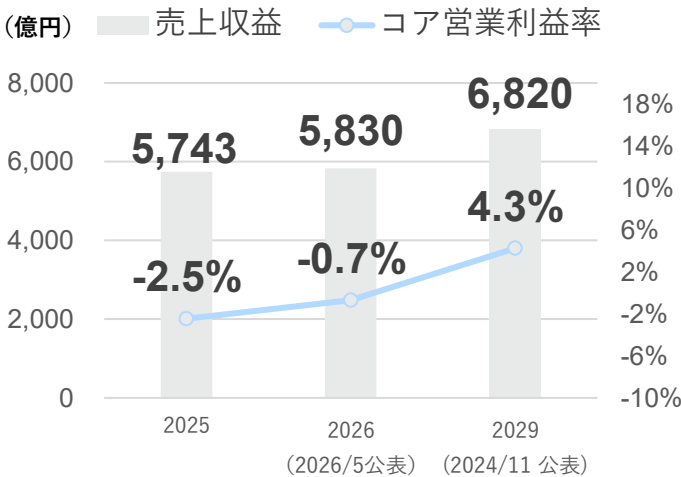
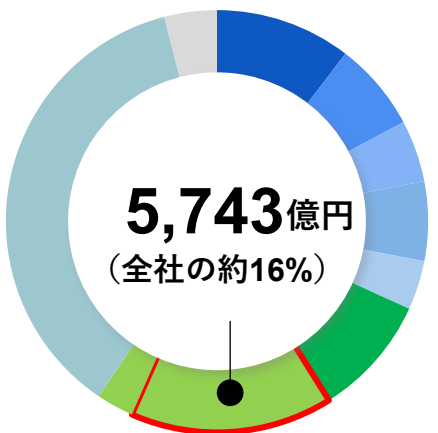
- ▶ 他社とのアライアンスに積極的に参画
 - 石化産業全体の構造改革
 - 競争力強化
 - グリーン化の積極的推進
- ▶ 経済安全保障とインフラとしての役割

化学産業の
再編牽引

経済安全保障
への貢献

化学産業の
グリーン化推進

2025年度 売上収益



炭素

炭素

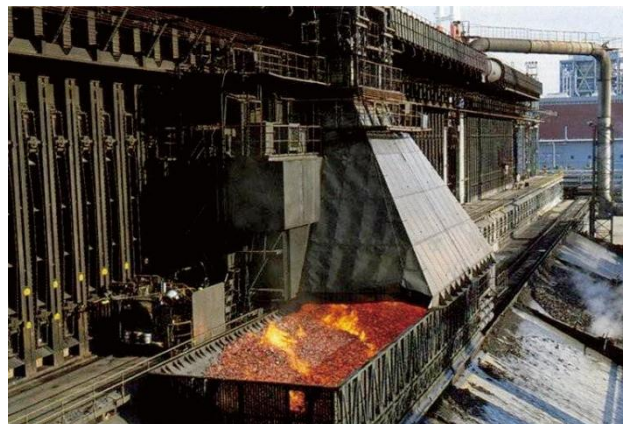
コークス、炭素材、カーボンブラック、合成ゴム

事業概要

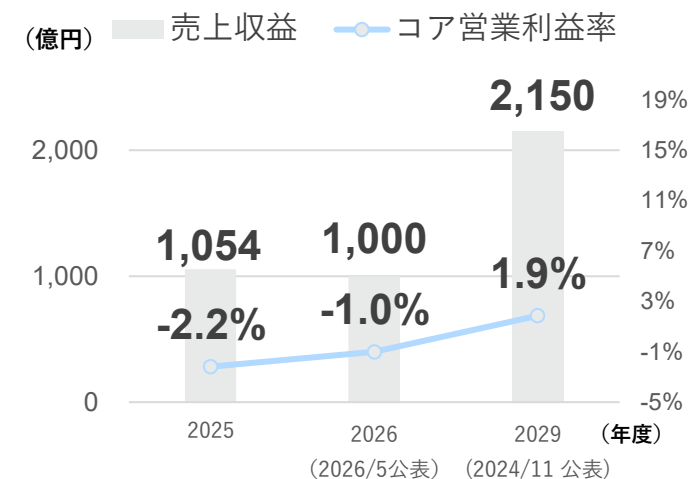
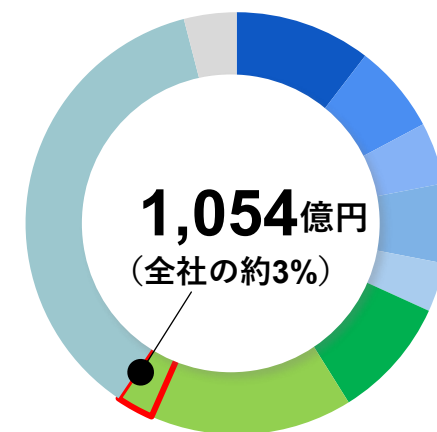
- 鉄鋼業の主原料コークスを始めとした高品質な製品を安定供給

構造改革

- 2027年度下期にコークス及び炭素材（ニードルコークス、ピッチコークス）の生産停止予定



2025年度 売上収益



産業ガス

産業ガス

産業ガス、プラント・ガス関連機器

産業ガス

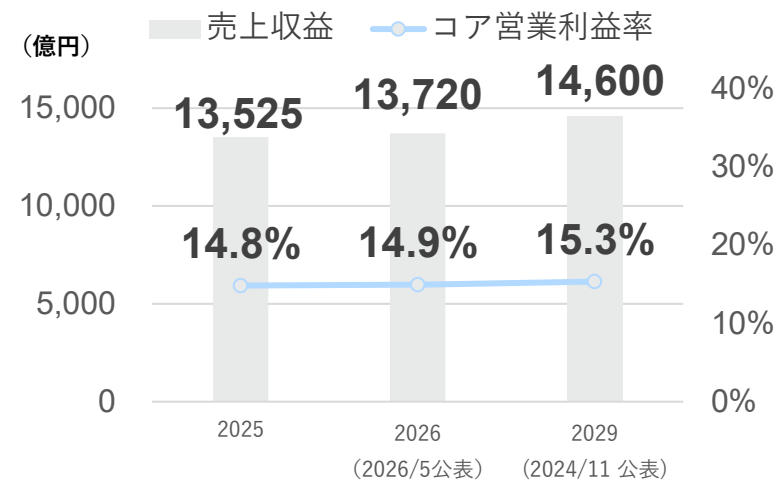
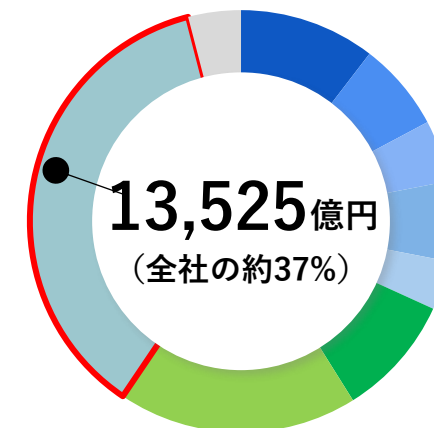
- 酸素、窒素、アルゴンを中心とする産業ガス市場においてグローバルシェア 4 位、国内シェア 1 位
- 北米、欧州、アジア・オセアニアを主要市場として海外の事業エリアを拡大
- 半導体、液晶などの製造プロセスで使用する電子材料ガスを提供

プラント・ガス関連機器

- 空気分離装置を初めて国産化
- 世界トップレベルのプラントメーカーとしての高い信頼を獲得



2025年度 売上収益



成長加速：EUVドライレジスト・コロイダルシリカの能力増強投資

半導体の集積度の進化は横方向の高密度化と縦方向の積層化の両面で加速、その進化を当社の技術で支える

横方向（線の細さ）



縦方向（層の数・薄さ）



半導体製造装置・設備向けビジネスの更なる拡大

- 半導体製造装置向け高機能エンブラ部材への投資拡大により市場成長を取り込み、収益力を強化
- 半導体製造装置向けプレートの拡販や水循環ソリューションの展開により事業基盤を拡大

次世代

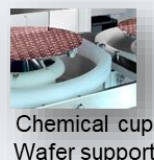
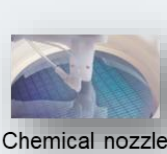
成長
ドライバー構造
改革収益
基盤

高機能エンジニアリングプラスチック部材

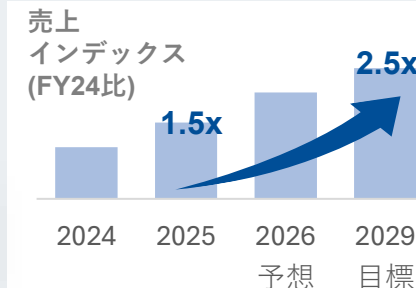


- 主要顧客：グローバルトップ半導体製造装置OEM
- 拠点集約によりグローバルオペレーション体制を更に強化
- タイ工場能力を5倍増強2025年12月（Phase1）稼働開始（FY27完成まで順次拡大）

➢ 前工程から後工程に至るまで
幅広い製品ラインナップ



最先端半導体製造機器メーカー 向けパーツ販売の成長見込み

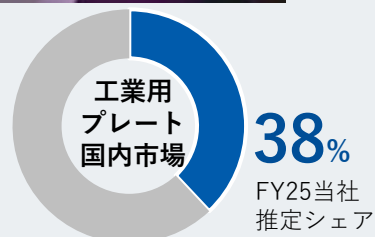


ヒシプレート™



- 樹脂配合技術により機能性を付与した工業用PVC*1プレート
- クリーンルーム向け材料の難燃規格「FM4910*2」に適合し、高い防火性能を求める半導体・先端産業の装置用途にも適合
- 生産性の高い製造プロセスを確立し、需要増に対応

➢ 自動洗浄装置
(筐体向けに当製品が使用)



超純水・排水処理

■ 当社の高機能分離材を利用した水循環システム事業

- 生成AI向け電子デバイス投資やデータセンター・BCP対策に伴う、超純水・再生水需要の取り込み
- 水処理設備の更新・メンテナンス需要を積極的に獲得し、事業基盤を拡大

高機能分離材製造



装置設計 → 装置製造 → 施工



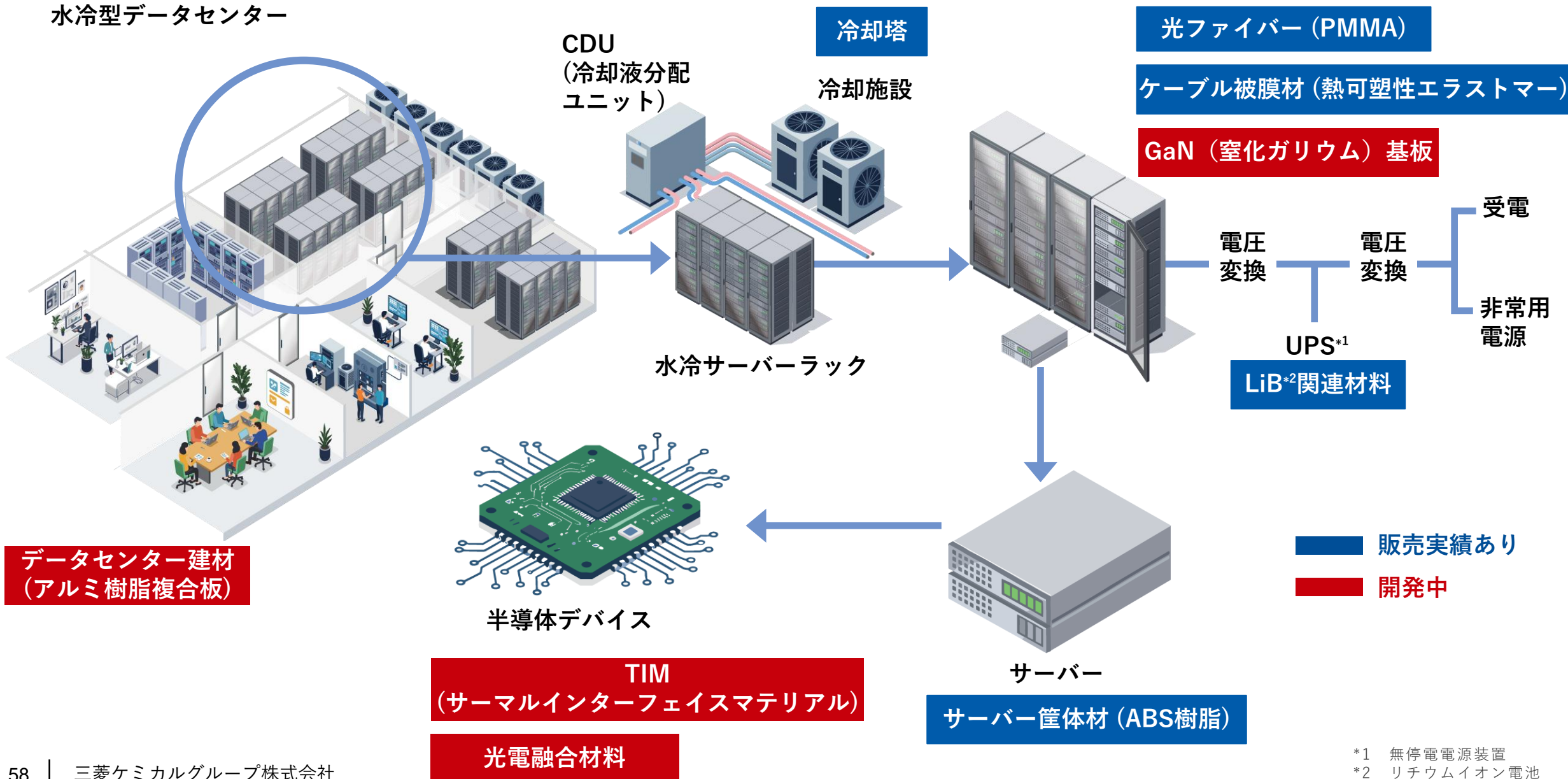
半導体
パッケージ
製造工場

*1 ポリ塩化ビニル

*2 FM Global社が制定したクリーンルーム用材料の難燃性能基準

「水冷型データセンター」は当社にとって多くのビジネスチャンスがある

水冷型データセンター



グリーンケミカル：原料転換の代表的な取り組み

各領域のパートナーと協業し、MCG独自技術を活かしたリサイクル・バイオマス・CO₂利活用の3ルートにおいて開発・事業化検討を推進

リサイクル

 2025年度 運転開始

超臨界水を活用した油化技術で、
廃プラスチックの資源循環に貢献

超臨界水を用いた油化による、
廃プラスチックのケミカルリサイクル



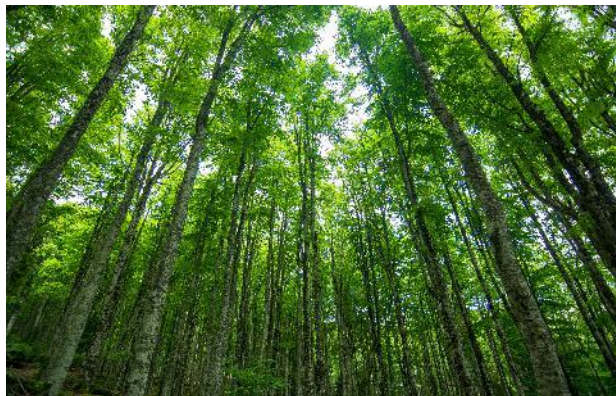
 **ENEOS**

バイオマス

 2030年頃 事業化検討中

持続可能な原料活用で、
脱炭素社会の実現に貢献

木質原料由来の航空燃料、並びに
バイオナフサの製造



 **JAPAN AIRLINES**  **Marubeni**  **MITSUBISHI
CHEMICAL
GROUP**
 **中国木材株式会社**  **BOEING**  **大林組**

CO₂ CCU

 2030年頃 事業化検討中

CO₂とグリーン水素を活用し、
低炭素なポリプロピレンの実現を通じて、
脱炭素社会と循環型社会の実現に貢献

CO₂とグリーン水素を原料とした
ポリプロピレンの製造



 **MASDAR**  **INPEX**

外部からの評価

ESGの取り組みは、国内外の主要評価機関から継続的に評価。主要ESG指数に採用
環境・サプライチェーン分野でも高い外部評価を獲得

ESG指数への組み入れ



ESG総合

2025 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

女性活躍

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



2004年以来 連続選定

*2025年7月現在



2017年以来 連続選定

FTSE JPX Blossom
Japan Index

*2026年1月現在



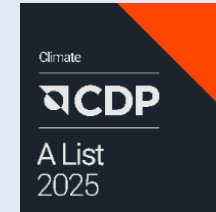
2022年から選定

FTSE JPX Blossom
Japan Sector
Relative Index

*2026年1月現在

環境・サプライチェーン評価

- CDPは、気候変動など環境分野に関心の高い機関投資家からの要請に基づき企業の環境への取り組みを評価する国際NGO



「気候変動」分野 : A
「水セキュリティ」分野 : A-

*2026年1月現在



「SEAリーダーボード」に選定

*CDPサプライヤー・エンゲージメントにおける最高評価
*2026年5月現在

- エコバディス社は、サプライチェーンを通じた企業のサステナビリティ経営を、環境・社会的慣行の改善への貢献により実現することを目指している世界的な評価機関



「ブロンズ評価」

*評価対象企業の上位35%水準
*2026年5月現在

綾瀬はるかさんをナビゲーターに迎え、新たなブランディングを開始

➤ テレビCM

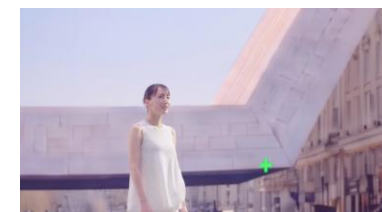
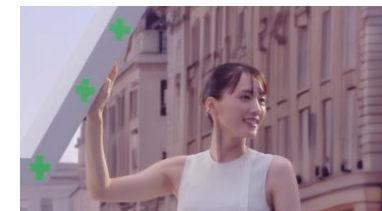


➤ グラフィック広告



CMギャラリー

CMおよびメイキング映像を
公開中



一人ひとりの主体的な行動と挑戦から、KAITEKIを実現



- 従業員一人ひとりがKAITEKIを自分事として捉え、三菱ケミカルグループで働く誇りと愛着を高めるため、2026年4月から「KAITEKI INNOVATION PARTNERへ」をスローガンとしたインナーブランディングを開始。
- 国内外の各職場における対話会を通じて、会社が目指す姿と自身の価値観を重ね、仕事を通じてKAITEKIの実現にどう貢献するか、挑戦したいことを「MY KIP」として宣言。
- 従業員一人ひとりの主体的な行動と挑戦を促し、企業価値の向上につなげていきます。



オウンドメディア

KAITEKIの実現に向けた
私たちの取り組みを
紹介しています。



KAITEKI Solution Center
for the well-being of people and the planet

